

2026年度

# 教科概要

作業療法学科



東京YMCA医療福祉専門学校

# 目 次

## 【1年生】

	科 目 名	履修時期	ページ
基礎分野	教育学	1年前	1
	心理学	1年前	2
	社会学	1年前	3
	情報科学	1年前	4
	人間関係学	1年前	5
	医学英語	1年後	6
	文献講読演習	1年前	7
	コミュニケーション論Ⅰ	1年前／後	8
専門基礎分野	解剖学	1年前／後	9-10
	解剖学実習	1年前／後	11-12
	生理学	1年前／後	13-14
	生理学実習	1年前／後	15
	運動学	1年後	16
	人間発達学	1年後	17
	病理学概論	1年後	18
	一般臨床医学Ⅰ	1年前	19
	内科学	1年後	20
	整形外科	1年後	21
	神経内科学	1年後	22
	精神医学	1年後	23
	小児科学	1年後	24
	臨床心理学	1年前	25
	リハビリテーション概論	1年前	26
	専門分野	作業療法概論	1年前
基礎作業学		1年後	28
基礎作業学実習Ⅰ		1年前／後	29
基礎作業学実習Ⅱ		1年後	30
身体障害作業療法評価学実習Ⅰ		1年後	31-32
臨床作業療法演習Ⅰ		1年前	33

## 【2年生】

	科 目 名	年次	ページ
基礎分野	コミュニケーション論Ⅱ	2年前／後	34
専門基礎分野	運動学実習	2年前	35-36
	保健医療福祉概論	2年前	37
専門分野	作業学	2年前	38
	身体障害作業療法評価学	2年前	39
	精神障害作業療法評価学	2年前	40
	発達障害作業療法評価学	2年前	41
	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	2年前	42
	身体障害作業治療学Ⅰ	2年前	43
	身体障害作業治療学Ⅱ	2年後	44
	精神障害作業治療学Ⅰ	2年前	45
	精神障害作業治療学Ⅱ	2年後	46
	発達障害作業治療学Ⅰ	2年前	47
	発達障害作業治療学Ⅱ	2年後	48
	老年期障害作業治療学	2年前	49
	高次神経障害作業治療学	2年前	50
	身体障害作業治療学実習	2年前／後	51
	精神障害作業治療学実習	2年後	52-53
	日常生活活動援助学	2年前	54
	日常生活活動援助学実習	2年前／後	55
	義肢装具学	2年後	56
	作業療法研究法Ⅰ	2年後	57
	臨床作業療法演習Ⅱ	2年前／後	58
	地域作業療法学Ⅰ	2年後	59
	環境整備論	2年後	60
	臨床実習Ⅰ-1(評価実習Ⅰ)	2年後	61
臨床実習Ⅰ-2(評価実習Ⅱ)	2年後		
臨床見学実習	2年前	62	

## 【3年生】

	科 目 名	履修時期	ページ
基礎分野	統計学	3年前	63
	死生学	3年前／後	64
専門分野	一般臨床医学Ⅱ	3年後	65
	作業療法管理学	3年前	66
	職業関連活動援助学	3年前	67
	作業療法研究法Ⅱ	3年前	68
	臨床作業療法演習Ⅲ	3年前／後	69
	地域作業療法学Ⅱ	3年前	70
	臨床実習Ⅱ-1(総合実習Ⅰ)	3年前	71
臨床実習Ⅱ-2(総合実習Ⅱ)	3年後		

# 【1年生・2年生・3年生】カリキュラム

分野	教育内容	科目名	単位	時間	コマ	形式	1年				2年				3年				
							前期		後期		前期		後期		前期		後期		
							時間	コマ	時間	コマ	時間	コマ	時間	コマ	時間	コマ	時間	コマ	
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	教育学	1	20	10	講義	20	10											
		心理学	1	20	10	講義	20	10											
		社会学	1	20	10	講義	20	10											
		統計学	1	20	10	講義								20	10				
		情報科学	1	20	10	講義	20	10											
		人間関係学	1	20	10	講義	20	10											
		死生学	1	20	10	講義								20	10				
		医学英語	1	20	10	講義			20	10									
		文献講読演習	2	30	15	講義・演習	30	15											
		コミュニケーション論Ⅰ	2	40	20	講義・演習	20	10	20	10									
		コミュニケーション論Ⅱ	2	40	20	講義・演習					20	10	20	10					
		小計	14	270	135		150	75	40	20	20	10	20	10	40	20	0	0	
		専門基礎分野	A. 人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	4	80	40	講義	40	20	40	20							
				解剖学実習	2	60	30	実技	30	15	30	15							
生理学	4			80	40	講義	40	20	40	20									
生理学実習	2			60	30	実技	30	15	30	15									
運動学	2			40	20	講義			40	20									
運動学実習	2			60	30	実技					60	30							
人間発達学	1			20	10	講義			20	10									
小計	17			400	200		140	70	200	100	60	30	0	0	0	0	0	0	
B. 疾患と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論			1	20	10	講義			20	10								
	一般臨床医学Ⅰ			1	30	15	講義・演習	30	15										
	一般臨床医学Ⅱ			2	40	20	講義・演習					40	20						
	内科学			2	40	20	講義			40	20								
	整形外科		2	40	20	講義			40	20									
	神経内科学		2	40	20	講義			40	20									
	精神医学		2	40	20	講義			40	20									
	小児科学		1	30	15	講義			30	15									
	臨床心理学		1	20	10	講義	20	10											
	小計		14	300	150		50	25	210	105	0	0	0	0	40	20	0	0	
C. 保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論		2	40	20	講義	40	20											
	保健医療福祉概論		2	40	20	講義・演習					40	20							
	小計		4	80	40		40	20	0	0	40	20	0	0	0	0	0		
	専門分野		A. 基礎作業療法学	作業療法概論	1	20	10	講義	20	10									
基礎作業学		1		20	10	講義・演習			20	10									
基礎作業学実習Ⅰ		2		60	30	実技	40	20	20	10									
基礎作業学実習Ⅱ		2		60	30	実技			60	30									
作業学		1		20	10	講義・演習					20	10							
小計		7	180	90		60	30	100	50	20	10	0	0	0	0	0			
B. 作業療法管理学		作業療法管理学	2	30	15	講義・演習								30	15				
		小計	2	30	15		0	0	0	0	0	0	0	30	15	0			
C. 作業療法評価学		身体障害作業療法評価学	1	20	10	講義・演習					20	10							
		精神障害作業療法評価学	2	40	20	講義・演習					40	20							
		発達障害作業療法評価学	1	20	10	講義・演習					20	10							
		身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	2	60	30	実技			60	30									
		身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	1	30	15	実技					30	15							
小計		7	170	85		0	0	60	30	110	55	0	0	0	0	0			
D. 作業療法治療学		身体障害作業治療学Ⅰ	1	20	10	講義					20	10							
		身体障害作業治療学Ⅱ	2	40	20	講義							40	20					
		精神障害作業治療学Ⅰ	1	16	8	講義					16	8							
		精神障害作業治療学Ⅱ	2	40	20	講義							40	20					
		発達障害作業治療学Ⅰ	1	20	10	講義					20	10							
		発達障害作業治療学Ⅱ	2	40	20	講義							40	20					
		老年障害作業治療学	1	20	10	講義					20	10							
		高次神経障害作業治療学	1	20	10	講義					20	10							
	身体障害作業治療学実習	2	60	30	実技					20	10	40	20						
	精神障害作業治療学実習	2	60	30	実技					20	10	40	20						
	日常生活活動援助学	1	30	15	講義					30	15								
	職業関連活動援助学	1	20	10	講義								20	10					
	日常生活活動援助学実習	2	60	30	実技							60	30						
	義肢装具学	1	30	15	講義							30	15						
	作業療法研究Ⅰ	1	16	8	講義							16	8						
	作業療法研究Ⅱ	1	16	8	講義								16	8					
	臨床作業療法演習Ⅰ	2	40	20	講義・演習	40	20												
	臨床作業療法演習Ⅱ	2	40	20	講義・演習					40	20								
	臨床作業療法演習Ⅲ	1	30	15	講義・演習							30	15						
小計	27	618	309		40	20	0	0	206	103	306	153	66	33	0	0			
E. 地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	1	20	10	講義・演習							20	10						
	地域作業療法学Ⅱ	2	30	15	講義・演習								30	15					
	環境整備論	2	30	15	講義							30	15						
	小計	5	80	40		0	0	0	0	0	0	50	25	30	15	0			
F. 臨床実習	臨床実習Ⅰ-1(評価実習Ⅰ)	3	135	68	臨床実習							135	68						
	臨床実習Ⅰ-2(評価実習Ⅱ)	3	135	68	臨床実習							135	68						
	臨床実習Ⅱ-1(総合実習Ⅰ)	8	360	180	臨床実習								360	180					
	臨床実習Ⅱ-2(総合実習Ⅱ)	8	360	180	臨床実習										360	180			
	臨床見学実習	1	45	23	見学実習					45	23								
	小計	23	1035	519		0	0	0	0	45	23	270	136	360	180	360	180		
合計	120	3163	1583		480	240	610	305	501	251	646	324	566	283	360	180			

## 共通ルール

授業内におけるすべての教科に適用される共通ルール。

実技科目など一部の物はそれぞれのシラバスに追記してあるので参照のこと。

持ち込み物	授業、学校行事、学校生活、個人的なニード(常備薬等)に必要なもの以外は持ち込まないこと
携帯電話	原則使用禁止 別途教員からの指示があれば従うこと
飲食	必要な水分補給、咳止めのための飴、その他授業を受けるために必要な物は許可する
私語	授業時間内での私語は厳禁とする
居眠り	起こしても繰り返し居眠りをする者は教室内で起立とする。起立の上居眠りしている場合は欠席扱いとする
遅刻・早退	理由を明らかにして許可を求める事。ただし授業に欠ける時間が30分を超える場合は欠席扱いとする
欠席	理由を明らかにして届けること
公欠	校長の許可を得たものであっても、また交通機関の遅れ等やむを得ないものであっても所定の届けを行なうこと
課題提出	特に指定のもの以外は教務課に設置の課題提出ボックスで期日までに提出すること(遅れたものは提出とはならない)
教員連絡先	全て教務課。実習等学外開講の者は都度指示をする
教科書等	教科書や文献は学年開始時点でまとめて購入する

## 実習着ルール

清潔にし、専門職にふさわしい整った着こなしをすること。

介護福祉科	揃いのポロシャツ、エプロン、任意のベージュチノ、白い上履き
作業療法学科	揃いのケーシー、スラックス、上履き

## 感染症対策

### <実習室内における行動指針>

- 学校の指定する実習室（介護実習室、義肢装具室、レクリエーション室、家政実習室、入浴実習室、ADL室）は、病院や高齢者施設、居住者宅といった特に感染症対策に注意が必要な場所と見なし、適切な対策（手指消毒やマスク着用など）を行った上で入室すること。別に教員の指示がある場合にはその指示に従うこと。

### <学校生活における行動指針>

- 自身の体調、社会の状況に注意しながら、医療・介護福祉の専門職業人として相応しい対応が即時できるように心がけること。

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	教育学		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	齊藤 勉	背景	公立高校教員歴36年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし				
授業概要					
<p>教育に関する基本的なことがらや概念を人類史的、歴史的に検討します。現代の教育を歴史的に位置づけるとともに、その現状を多面的にとらえ、社会や人間関係の変化を含めて考察し教育のあり方への認識を深めたいと思います。</p>					
狙いと到達目標					
<p>動物、人類にとっての文化を理解し、文化の伝達という見地から教育を考えることができる。教育を歴史的見地から理解し、人にとってなぜ教育が必要かを説明できる。教育の現状と課題を自らの体験をふまえながら理解し、多様な教育のあり方を考えられる。物事を多面的に捉え、自分の理解や考えを説明・表現できるようになる。</p>					
授業において実務経験をどのように生かすか					
<p>これまで東京の多摩地域で暮らし、物事を見つめてきました。「井の中の蛙 大海を知らず」ですが、「されど空(天)の青さ(深さ)を知る」と続けることもできます。ひとつの道を究めること、あるいはこだわることは自らの知見を広め、世界とつながる大切な道であると思っています。</p>					
授業計画・内容					
1	はじめに 授業概要の説明。“教育体験”をふりかえり、教育の用語を知る				
2	教育の原点「文化伝達」を霊長類(サル)の行動や文字から考察する				
3	日本の教育①: 古代 書記言語の役割と「学校」				
4	日本の教育②: 中世 教科書(往来物)の出現と識字能力の拡大				
5	日本の教育③: 江戸時代—文字社会の成立と手習い(寺小屋)・学問塾				
6	日本の教育④: 江戸時代—文字社会の成立と手習い(寺小屋)・学問塾(その2)				
7	日本の教育⑤: 明治・大正時代 近代学校制度の成立と展開①				
8	日本の教育⑥: 明治・大正時代 近代学校制度の成立と展開②				
9	日本の教育⑦: 大正・昭和時代 戦前・戦中の教育				
10	日本の教育⑧: 戦後 戦後教育改革とその改革がめざしたもの				
評価方法	提出物20% 筆記試験80%				
自由記述 (メッセージ)	当たり前だと思っていることを時には疑うことで、気づき、発見があり、自分の認識が深まることがあります。疑うヒントが歴史には潜んでいます。「歴史嫌い」の人にもそのヒントを見つけてもらえればと思っています。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	心理学		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	田中 智子	背景	保健センター等の心理職経験 専門学校講師29年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	建帛社「心理学」と随時資料配布				
<b>授業概要</b> 心理学の基礎的な分野から、人間理解に役立つと思われるテーマを取り上げ、基礎的な知識を学ぶとともに、自分自身や臨床で出会う可能性のある人の行動や心の背景について考え、話し合う機会を作る。					
<b>狙いと到達目標</b> 認知過程、学習の理論、心の構造などの基礎的な知識を理解し、必要に応じて想起できるようになる。認知や行動の一般的な傾向と一般的でない働きがさまざまな場面で生じることを知り、人について考え、今後臨床の場面で出会う方々の状態を考えるヒントにできる。共通性、固有性、複雑さ、単純さ、強さ、弱さなど、人のさまざまな側面を感じるようになってもらうことを目指す。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 心理学の基礎的な知識とともに、それらに関連すると考えられる疾患や障害がなどについて、病院、障害児施設、保健センター等での業務での経験を伝え、共に考えるようにしたい。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	心理学の歴史	科学としての心理学のはじまりとその後の展開について			
2	認知心理学(認知)	人が外界の情報をどのように処理し体験するかについて			
3	認知心理学(記憶)	記憶の過程、種類、記憶の傾向について			
4	学習心理学	無学習行動、基本的な学習の理論について			
5	学習心理学	学習の理論をその応用について			
6	意識と無意識	フロイトの考えた心のしくみと適応機制について			
7	人格心理学	人格(性格)の理論と代表的な人格検査について			
8	人格検査の実施と自己分析				
9	コミュニケーション	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて			
10	社会心理学	集団の中での個人の行動について			
評価方法	提出課題	10%			
	筆記試験	90%			
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	社会学		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	佐々木和裕	背景	専門学校を中心に教育歴30年		
授業形態	座学中心	実務家教員 である			
受講ルール	まわりに、迷惑をかけない。ノートを取ること。				
受講条件	社会について常に問題意識を持つことができる人(やる気のある人)				
教科書等	社会学用語図鑑 プレジデント社				
<b>授業概要</b> 人間とは何か、人間と社会の関係を通して理解する。社会の一員として人間はどう生きるべきかを深く考えてみる。社会や人間に関心を持ち、直面する現代社会の問題を理解する。					
<b>狙いと到達目標</b> 受講生が、社会学とは何かという意識を持ち、社会学の基礎的知識を身につける。私たちの生きる社会について分析し、考察できる基礎力を養う。将来医療人として、コミュニケーションの取れる、人の話を聞ける人になることを目指す。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 社会福祉士・精神保健福祉士として成年後見人として活動中 その中での経験を少しでもお話できればと考えています。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	社会学について	授業概要・日程について説明			
2	社会学の歩み	社会学の歴史			
3	行為と行動	マズローの欲求段階説、ウェーバーの行為の4類型			
4	集団と組織	組織とコミュニケーション 社会集団について			
5	地域社会	地域とコミュニティ 自然村と行政村			
6	社会的地位、役割	役割期待、社会化、印象操作、役割距離			
7	社会階層について	社会階層、社会階級、職業威信、格差社会			
8	ジェンダー	性別役割、職業労働と家事労働			
9	家族と社会	家族の基本概念、親密な存在ゆえの難しさ			
10	人権について考える	共生社会・福祉についてグループワークで考える			
評価方法	筆記試験 100%				
自由記述 (メッセージ)	声を出して本を読むと頭に入るそうです。音読のすすめ				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	情報科学		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	芳賀孝志	背景	企業研修及び専門学校講師の経歴		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	改訂3版 J検情報活用3級完全対策公式テキスト 著者名:財団法人専修学校教育振興会 監修 出版社:日本能率協会マネジメントセンター				
<b>授業概要</b> 情報の基礎知識からパソコンの操作・利用と役割・機能、情報モラルなどに関わる基礎知識を学ぶ。					
<b>狙いと到達目標</b> 情報の基礎知識からパソコンの操作・利用と役割・機能、情報モラルなどに関わる基礎知識を学ぶ。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 複数の企業での職務経歴や、様々な業種の顧客企業へのサービス提供における関連経験を基に、事例を活用しながら、生徒の理解を促進する。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	情報表現と処理手順1	情報とデータ	情報の表現		
2	情報モラル	情報モラルとネチケツ	関連法規		
3	情報社会とコンピュータ	社会とコンピュータシステム	進展と課題		
4	情報社会とコンピュータ	社会とコンピュータシステム	進展と課題		
5	インターネットの基礎	インターネットの基礎知識			
6	インターネットの利用	メールソフトとWWW			
7	パソコンの基礎1	パソコンの基本構成 ハード・ソフトウェア			
8	パソコンの基礎2	OS 入出力装置 記憶装置			
9	パソコンの基礎3	操作(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)			
10	情報表現と処理手順2	問題解決の方法			
評価方法	出席・試験・課題 ※授業第9コマと試験ではパソコンが必要です。必ず持参して下さい。				
自由記述 (メッセージ)	今日の時代、情報やコンピュータなどの電子機器、インターネット無しでは、毎日を効率的に生活していくのは困難です。それらの理解の内容や使い方で、学習や生活に、もっと有意義な活用ができます。また、その逆も然りです。授業を通じて、それらの正しい理解を、一緒に、楽しく、学習していきましょう。				

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	人間関係学		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	渡辺俊彦	背景	牧師39年 教員歴40年 児童養護施設理事 臨床牧会研究所代表		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし				
<p><b>授業概要</b></p> <p>人間が生涯、関係を持たなければならないのは自分自身である。そのため自分自身との関係性を成育歴を振り返りながらアセスメントする。そして、自己理解を深め自分自身に対する気づきが起こるような内容とする。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b></p> <p>成育歴で何を受け学習してきたのか。そして、自分との関係性の中で何を修正することが自分にとって適切なのかを具体的にする。 不適切なところを修正し適切な出し方や関わり方ができるようになることを目指す。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>自己理解を深めることは他者理解へと繋がり良い関係性を構築することを可能にする。そのため、日常の人間関係のみならず、実習や専門職として仕事をするときクライアントと健全な関係性を構築するために生かす。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	コミュニケーション理論と基礎 人間関係は自分との関係が基本				
2	自己概念の形成				
3	自己開示の大切さ				
4	健全な自己肯定感				
5	健全な自己肯定感				
6	愛着形成				
7	愛着形成				
8	愛着形成				
9	認知の歪み				
10	まとめ				
評価方法	授業態度 20% レポート 80%				
<p>自由記述 (メッセージ)</p>					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	医学英語		必修	1年後期	10コマ・20時間
担当教員	佐々木康友 中村由美	背景	作業療法士歴15年以上		
授業形態	講義	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
参考書等	リハビリテーションの基礎英語 改訂第3版(メジカルビュー社) 筋肉のしくみ・はたらきパーフェクト辞典 (ナツメ社)				
<b>授業概要</b> 身体構造、部位、筋・神経、疾患、略語等を表す医学英語を学ぶ。適宜復習のワークを行うことで、記憶の定着を図る。					
<b>狙いと到達目標</b> 作業療法士が働く医療現場で日常的に用いられる、『医療用語』『リハビリテーション用語』『略語』等を英語で理解し、これからの勉強や実習での理解がスムーズに進むようにする。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 今学んでいる言葉が実際の現場でどのように使われているのか、作業療法士としての現場での経験を生かしながら伝えていきたい。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	リハビリテーションとは・リハビリテーションのための人体の基礎知識① (断面と方向)				
2	リハビリテーションのための人体の基礎知識②(関節可動域・主要関節と部位)				
3	リハビリテーションのための人体の基礎知識③(関節可動域・主要関節と部位)				
4	人体の構造①(骨格系)				
5	人体の構造②(骨格系・筋肉系)				
6	人体の構造③(筋肉系)				
7	人体の構造④(筋肉系・神経系)				
8	人体の構造⑤(神経系)				
9	疾患とリハビリテーション①				
10	疾患とリハビリテーション②・略語				
評価方法	定期筆記試験				
自由記述 (メッセージ)	他の教科との関連のある内容なので、この機会に他教科の予習・復習とも捉えてほしい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	文献講読演習	必修	1年前期	15コマ・30時間	
担当教員	佐々木康友	背景	作業療法士歴	15年以上	
受講ルール	共通ルール				
授業形態	講義・演習	実務家教員である			
受講条件	なし				
教科書等	知へのステップ 第5版 くろしお出版				
<b>授業概要</b> 専門学校においては様々な教科書や文献を読み、自主的に学ぶ姿勢が求められる。学年を追って、より専門的な内容の学びが増え、自分で考える機会も多くなっていく。本演習によって読み、書き、考え、表出し、また考える機会を作り、作業療法学生として求められる日本語力を身につけるきっかけとしたい。					
<b>狙いと到達目標</b> ・文献の構成や専門用語を理解できる ・文献を読んで要約することができる ・文献の要旨を他者に伝えることができる					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> これまでの実務経験では、グループワークを行う機会が少なからずあった。この経験から、授業では講義だけでなく、グループワークも適宜とり入れて、学生一人一人の深い学びとなるように努めていきたい。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	オリエンテーション、アカデミックライティングの基本スキル①				
2	アカデミックライティングの基本スキル②				
3	リーディングのスキル①				
4	リーディングのスキル②				
5	文章を分析的に読み、要約する①				
6	文章を分析的に読み、要約する②				
7	文章を分析的に読み、要約する③				
8	文章を読んで学びや気づきを表現する①				
9	文章を読んで学びや気づきを表現する②				
10	文章を読んで学びや気づきを表現する③				
11	表現力をつける①(効果的なアカデミックライティングのために)				
12	表現力をつける②(プレゼンテーションの基本スキル)				
13	表現力をつける③(プレゼン資料の作成)				
14	表現力をつける④(発表)				
15	まとめ				
評価方法	提出物(30%) 定期試験(70%)				
自由記述 (メッセージ)	これからの学習において、自分で考え、学んでいく姿勢を改めて確認していきたい科目でもある。学習をすすめる上での基礎としての位置づけでもあるので、一緒に協力し合いながら学んでいきましょう。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科	
授業名,属性	コミュニケーション論 I	必修	1年通年	20コマ・40時間
担当教員	佐々木康友	背景	作業療法士歴	15年以上
受講ルール	共通ルール			
授業形態	講義・演習	実務家教員である		
受講条件	特になし			
教科書等	参考書:山口 PT・OTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版 医学書院			
授業概要				
<p>そもそも「コミュニケーション」とは何かについて理解を深め、対人援助職として位置づけられる作業療法士が求められる能力について考える契機とする。</p>				
狙いと到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人として自分を成長させる素地を養うこと</li> <li>・コミュニケーションとは何か理解し表現することができる</li> <li>・コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる</li> </ul>				
授業において実務経験をどのように生かすか				
<p>様々な職種や対象者・家族と接してきたが、特に治療・支援の対象となる患者さんとの良好な関係性を築くためには、適切なコミュニケーションが欠かせない。臨床での経験等を踏まえてコミュニケーションの大切さについて伝えていきたい。</p>				
授業計画・内容				
1				
2	学生生活において基礎となるコミュニケーションについて①			
3				
4				
5	心身ともに健康な医療従事者になるために(クラス内のコミュニケーションについて)			
6				
7				
8	心身ともに健康な医療従事者になるために(様々なひととのコミュニケーションについて)			
9				
10	前期の振り返り			
11	学生生活において基礎となるコミュニケーションについて②			
12				
13	対人援助職の基礎としての自己管理について			
14				
15				
16				
17	対人援助職として身につけておきたいコミュニケーションについて			
18				
19				
20	後期の振り返り			
評価方法	レポートにて評価する			
自由記述 (メッセージ)	コミュニケーションを通して自分を知る、相手を知る機会とする。社会とつながる一手段として当たり前に使われている言葉であるが、セラピストとしてどのように使っていけばいいのか、2年生の専門科目の学びにつなげていきたい。			

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	解剖学(前期)		必修	1年前期	20コマ・40時間
担当教員	佐藤 巖	背景	医科系大学教員49年		
授業形態	講義	実務家教員 でない			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	からだが見える～人体の構造と機能～(チーム医療を担う医療人共通のテキスト)				
授業概要					
作業療法士に必要な人体の骨格、運動の機能、循環器に関する知識を修得する。					
狙いと到達目標					
人体の構造と機能を理解するための基礎的知識の修得と、実際のヒトの立体的位置関係を理解する。人体の解剖学的名称を列挙し、骨格系から循環器系までの働きを説明出来る。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
医学部と歯学部で長年、解剖学を教えてきたきた経験から医学の基盤科目である解剖学の重要性和必要性のポイントを熟知しており、これを作業療法士に必要な人体の構造と機能の習得に役立てる。					
授業計画・内容					
1	解剖学の歴史と重要性について				
2	骨の変化と骨格の意義				
3	二足歩行に適応した脊柱の構造と名称				
4	上肢・下肢を構成する骨群の名称				
5	保護器官である頭蓋、骨盤、胸郭の仕組みと名称				
6	運動機能に適応した骨の連結				
7	運動機能を維持する筋の形態と機能				
8	体幹の筋の構成要素と働き				
9	上肢の筋の構成要素と働き				
10	上肢帯の筋の構成要素と働き	前期中間試験予定			
11	下肢の筋の構成要素と働き				
12	下肢帯の筋の構成要素と働き				
13	骨と筋を組み合わせた運動系から理解				
14	循環器の機能と重要性を理解				
15	心臓の循環に必要な知識				
16	四肢の循環に必要な知識				
17	内臓系の循環に必要な知識				
18	胎児循環と静脈の意義を理解				
19	リンパ系(含む免疫系)の基礎知識				
20					
評価方法	試験(モノグサテスト30%、筆記試験70%) 前期・後期で定期試験を実施。また各期で中間試験を行う。 60%に満たない場合はそれぞれの試験で再試験を行う。				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	解剖学(後期)		必修	1年前期	20コマ・40時間
担当教員	佐藤 巖	背景	医科系大学教員49年		
授業形態	講義	実務家教員 でない			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	からだが見える～人体の構造と機能～(チーム医療を担う医療人共通のテキスト)				
<b>授業概要</b> 作業療法士に必要な人体の内臓、神経支配に関する知識を修得する。					
<b>狙いと到達目標</b> 人体の内臓の名称と働きに関する知識の修得と、人体の神経の名称を列挙出来、骨格系、内臓を神経支配から人体の働きを説明出来る。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 解剖学を講義し、実際の人体解剖を行ってきた経験から単なる人体の名称の確認だけでなく、臓器の位置や働き、神経の支配領域の特定と機能の重要点を熟知しており、これを作業療法士に必要な人体の構造と機能の習得に役立てる。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	呼吸、消化、生殖、内分泌に関する内臓の働きと位置				
2	消化器の入り口と咀嚼に関する解剖学的知識				
3	嚥下や上部消化管の名称と働き				
4	内臓実質臓器の名所や位置、下部消化管の名称と働き				
5	上気道に関わる名称を把握				
6	下気道に関わる名称を把握				
7	泌尿器に関する内臓の働きと位置				
8	腎臓、尿路の位置や名称				
9	尿の生成と排尿の仕組み				
10	生殖器に関する内臓の働きと位置				
11	生殖器の性差に関する内臓の名称と位置				
12	胎児発生、骨、筋、内臓、神経形成の名称と働き				
13	内分泌に関する内臓の働きと位置				
14	神経に関する働きと名称				
15	脳の名称と働き				
16	脳神経系の名称と働き				
17	脊髄神経系の名称と働き				
18	自律神経に関わる名称				
19	神経支配と筋の関係を把握し、説明できるようにする				
20	神経支配と内臓の関係を把握し、説明できるようにする				
評価方法	試験(モノグサテスト30%、筆記試験70%) 前期・後期で定期試験を実施。また各期で中間試験を行う。 60%に満たない場合はそれぞれの試験で再試験を行う。				
<b>自由記述</b> (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	解剖学実習		必修	1年通年	30コマ・60時間
担当教員	佐藤 巖	背景	医科系大学教員49年		
授業形態	実技	実務家教員 でない			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	からだが見える～人体の構造と機能～(チーム医療を担う医療人共通のテキスト)				
<b>授業概要</b> 骨格標本模型や実際の人体標本(献体標本)を通して形態の特色を捉え、作業療法学に必要な知識と機能を説明できるようにする					
<b>狙いと到達目標</b> 人体の構造と機能を理解するための基礎的知識の修得と、人体の立体的位置関係を理解する。人体の解剖学的特色をを列挙出来、骨格系から内臓、神経系までの働きを図で説明出来る。標本の観察とスケッチを通してグループと個人で、人体の構造と機能を説明できる能力を養う。各セッションごとにグループ発表し、説明能力を養う。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 実際の人体解剖(干体以上)を行ってきた経験(死体解剖資格認定)から、人体構造についての個人の違いや形態学的特色を熟知しており、実際の人体解剖実習見学を通して作業療法士に必要な人体の構造と機能の習得に役立てる。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	骨格の区分				
2	頭蓋の観察とスケッチによる理解				
3	体幹の観察とスケッチによる理解				
4	上肢帯と上肢骨の観察とスケッチによる理解				
5	下肢帯と下肢骨の観察とスケッチによる理解				
6	グループによる骨区分による特色と名称の違いを説明する				
7	頭蓋から見た筋付着部の観察とスケッチによる理解				
8	体幹から見た筋付着部の観察とスケッチによる理解				
9	上肢帯と上肢骨から見た筋付着部の観察とスケッチによる理解				
10	下肢帯と下肢骨から見た筋付着部の観察とスケッチによる理解				
11	グループによる骨区分による筋付着の特色と名称の違いを説明する				
12	心臓の模型のスケッチによる特色と名称を理解				
13	動脈の流れを教科書からスケッチし特色と名称を理解				
14	静脈の流れを教科書からスケッチし特色と名称を理解				
15	脳の血管系を教科書からスケッチし特色と名称を理解				

16	脳の模型から区分と形態をスケッチし特色と名称を理解
17	脳神経の流れを教科書からスケッチし特色と名称を理解
18	頭蓋の神経の通路を観察し、スケッチによる記入
19	脊髄神経の流れを教科書からスケッチし特色と名称を理解
20	神経支配の違いによる上肢筋の付着部の観察とスケッチによる理解
21	神経支配の違いによる下肢筋の付着部の観察とスケッチによる理解
22	教科書から神経支配の違いによる内臓の観察とスケッチによる理解
23	教科書から自律神経系による分布とスケッチによる理解
24	模型標本による内臓の形態的と特色を理解
25	医の倫理と人体解剖骨格標本による筋の観察と特色と名称を理解(人体解剖実習見学)
26	人体解剖標本による内臓の観察と特色と名称を理解(人体解剖実習見学)
27	人体解剖標本による脳・神経の観察と特色と名称を理解(人体解剖実習見学)
28	体表解剖による骨の位置を理解
29	体表解剖による筋の位置を理解
30	体表解剖による内臓・脈管の位置を理解
評価方法	前期・後期で定期テストを実施。* 60%に満たない場合はそれぞれの期で再試を行う。 定期テスト(90%)、スケッチ・発表(各5%)
自由記述 (メッセージ)	作業療法学に必要な実践的な解剖学の知識と機能を説明できる人を育てる

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科
授業名,属性	生理学	必修	1年前期20コマ/後期20コマ・80時間
担当教員	渡邊 利明	背景	臨床・基礎研究および教育経験をふまえて医学教育に従事
授業形態	講義	実務家教員	でない
受講ルール	共通ルール		
受講条件	特になし		
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版 医学書院		
<p><b>授業概要</b></p> <p>(A) 社会的基礎能力: 医学の社会的側面における疾病の環境、心身の成長を治療方針の一環として生理学を徹底的に理解する。</p> <p>(B) 自己実現能力: 作業療法士国家試験の基礎・一般科目の内容にある生理学は、非常に重要な科目でありぜひとも必要な学習内容である。</p> <p>(C) 医療の本質は医療の根本である「ヒトを診る」ことに関して基本をなすものである。生理学は医療従事者としての第一歩の学問である。</p> <p>これらの授業に関し、米国で臨床科学の教育・研究留学経験を生かした内容を含んだ教授をおこなう。</p>			
<p><b>狙いと到達目標</b></p> <p>医療従事者として必要な生理学の基礎を習得させることを目標とする。</p>			
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>医学的知識を地道に社会に生かす。このことを実践できる学問であることは確かである。その自覚をもつ。</p> <p>生理学の基礎を学ぶことにより、論理的な思考力や社会科学に対する探究力を養う。ことで、患者さんに対する論理的な思考力や社会科学に対する探究力を養う。</p>			
<b>授業計画・内容</b>			
1	生命現象と人体①		
2	生命現象と人体②		
3	生命現象と人体③		
4	細胞の構造と機能①		
5	細胞の構造と機能②		
6	細胞の構造と機能③		
7	神経の興奮伝導と末梢神経①		
8	神経の興奮伝導と末梢神経②		
9	神経の興奮伝導と末梢神経③		
10	神経の興奮伝導と末梢神経④		
11	(前期中間試験)		
12	中枢神経系①		
13	中枢神経系②		
14	中枢神経系③		
15	中枢神経系④		
16	筋と骨①		
17	筋と骨②		

18	筋と骨③
19	筋と骨④
20	総括
21	感覚①
22	感覚②
23	感覚③
24	感覚④
25	血液①
26	血液②
27	血液③
28	血液④
29	心臓と循環①
30	(後期中間試験)
31	心臓と循環②
32	心臓と循環③
33	心臓と循環④
34	呼吸とガスの運搬①
35	呼吸とガスの運搬②
36	呼吸とガスの運搬③
37	呼吸とガスの運搬④
38	総括①
39	総括②
40	総括③
評価方法	前期・後期で定期試験を行う。また各期に中間試験を行う。レポート点等を加味して成績を評価する。
自由記述 (メッセージ)	

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	生理学実習	必修	1年通年	30コマ・60時間	
担当教員	渡邊 利明	背景	臨床・基礎研究および教育経験をふまえて医学教育に従事		
授業形態	実技	実務家教員	でない		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版 医学書院				
<b>授業概要</b> (A) 社会的基礎能力: 医学の社会的側面における疾病の環境、心身の成長を治療方針の一環として生理学実習を徹底的に理解する。 (B) 自己実現能力: 作業療法士国家試験の基礎・一般科目の内容にある生理学は、非常に重要な科目でありぜひとも必要な学習内容である。 (C) 医療の本質は医療の根本である「ヒトを診る」ことに関して基本をなすものであるため、生理学は医療従事者としての第一歩の学問である。 これらの授業に関し、米国で臨床科学の教育・研究留学経験を生かした内容を含んだ教授をおこなう。					
<b>狙いと到達目標</b> 講義や教科書などで得られた生理学に関する知識を実験や観察、グループワークによって印象づけ、より理解を深めることを目標とする。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 医学的知識を地道に社会に生かす。このことを実践できる学問であることは確かである。その自覚をもつ。 生理学の基礎を学ぶことにより、論理的な思考力や社会科学に対する探究力を養う。ことで、患者さんに対する論理的な思考力や社会科学に対する探究力を養う。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	尿の生成と排泄1 腎臓の機能、ネフロン構造と働き				
2	尿の生成と排泄2 尿細管の再吸収と分泌				
3	尿の生成と排泄3 腎機能の評価、排尿				
4	酸塩基平衡 pHとは、アシドーシスとアルカローシス				
5	消化と吸収1 消化管の構造、口腔、食道				
6	消化と吸収2 胃の消化、小腸の消化と吸収				
7	消化と吸収3 肝臓の働き、胆汁の成分と働き				
8	消化と吸収4 膵液の成分と働き、大腸				
9	内分泌1 内分泌の仕組み、ホルモンの分類				
10~11	内分泌2 内分泌臓器とホルモン				
12	生殖と発生1 女性の生殖(関与するホルモン、性周期)				
13	生殖と発生2 女性の生殖(妊娠と分娩)、男性の生殖				
14	代謝と体温1 栄養素(種類と代謝)、エネルギー代謝				
15	代謝と体温2 体温の調節				
16~17	運動系実習				
18~19	呼吸器系実習				
20~21	消化器系実習				
22~23	血液系実習				
24~25	泌尿器系実習				
26~27	神経系実習				
28~29	感覚系実習				
30	まとめ				
評価方法	試験、ノート、レポート、小テストを加味して成績を評価する。				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	運動学		必修	1年後期	20コマ・40時間
担当教員	武藤友和	背景	理学療法士歴25年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学 第2版(羊土社) 参考資料:基礎運動学 第6版 (医歯薬出版) 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 (医歯薬出版) 身体運動学 (メディカルビュー出版)				
<b>授業概要</b> 身体運動の基本的な理解のために、頭頸部、体幹、四肢の基本的な構造と運動について学習する。また、ヒトの運動を神経生理学的観点からも理解し、関節運動が立体的にどのように行われているかを学習する。					
<b>狙いと到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各関節の構造を理解し、その機能(運動)についての意味を理解することができる。</li> <li>・運動学的な知識を応用し身体運動について自分の考えを表現することができる。</li> <li>・身体機能評価や動作分析について考察する際必要となる、生体力学について理解することができる。</li> </ul>					
授業において実務経験をどのように生かすか 運動学の知識がどのように実際の臨床に生かされているのか適宜提示していく。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	オリエンテーション、運動学の基礎				
2	関節の構造・形状について、関節包内運動、筋学総論(構造と収縮)				
3	上肢帯と上肢の運動学①(肩複合体の構造と運動①)				
4	上肢帯と上肢の運動学②(肩複合体の構造と運動②)				
5	上肢帯と上肢の運動学③(肘関節・前腕の構造と運動)				
6	上肢帯と上肢の運動学④(手関節・手指の構造と運動)				
7	上肢帯と上肢の運動学(まとめ)				
8	下肢帯と下肢の運動学①(股関節の構造と運動)				
9	下肢帯と下肢の運動学②(膝関節の構造と運動)				
10	下肢帯と下肢の運動学③(足関節・足部の構造と運動)				
11	下肢帯と下肢の運動学③(まとめ)				
12	頭頸部・体幹の運動学①(頭頸部・体幹の構造と運動、呼吸運動)				
13	頭頸部・体幹の運動学②(頭頸部・体幹の構造と運動、呼吸運動)				
14	生体力学(てこ、支持基底面、重心など)				
15	頭頸部・体幹の運動学、生体力学(まとめ)				
16	正常歩行①(小児・成人・高齢者、歩行時の筋活動とその役割)				
17	正常歩行②(小児・成人・高齢者、歩行時の筋活動とその役割)				
18	異常歩行(各異常歩行の原因疾患と代償動作)				
19	正常歩行・異常歩行(まとめ)				
20	全体まとめ・振り返り(グループ討論)				
評価方法	授業・グループワーク参加状況(20%)、中間・期末テスト(各40%)				
自由記述	授業前に解剖学の復習をして、グループワークには積極的に望みましょう。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	人間発達学		必修	1年後期	10コマ・20時間
担当教員	北村弥生	背景			
授業形態	講義	実務家教員 でない			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	講義では毎回、教科書を使用しますので、持参してください				
教科書等	「リハビリテーション医学講座 第2巻 人間発達学」上田礼子 著(医歯薬出版) その他、必要に応じて資料を配布する。				
<b>授業概要</b> 出生から死亡までの人間の発達について、解剖、生理、心理、社会的側面から解説する。平均的な発達に加え、障害がある場合の発達についても触れる。さらに、すべての年齢の人が同時に経験する災害時の対応についてグループワークで学ぶ。					
<b>狙いと到達目標</b> リハビリテーションの背景となる個人の一生の発達、社会との関わりについて知識を得る。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 全障害に関する研究および実践活動の経験(障害者の災害準備、障害児のきょうだい支援)を、実例として情報提供する。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	1.総論	2.身体			
2	3.運動	4.認知			
3	4.認知				
4	5.情緒				
5	6.社会性	7.パーソナリティ			
6	8.青年期				
7	9.成人期				
8	10.高齢期				
9	応用課題	グループワーク			
10	総復習				
評価方法	期末テスト。				
<b>自由記述</b> (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	病理学概論		必修	1年後期	10コマ・20時間
担当教員	山 美喜子	背景	東京歯科大学病理学講座で病理組織診断担当		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第5版				
<b>授業概要</b> スライドを使った解説を行った後、まとまった内容ごとに直結した練習問題を学生に主体的に解答、発言させる。					
<b>狙いと到達目標</b> 病理学総論を中心に、関連した国家試験に出題頻度が高く、作業療法士の業務に関連の高い病態について理解する。					
授業において実務経験をどのように生かすか 病理組織診断、病理解剖の具体的経験を伝え、学生の理解を深める。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	病理学の意義、病因(主な外因)				
2	退行性病変(代謝障害) 代謝障害による疾患①				
3	代謝障害による疾患②				
4	進行性病変、循環障害				
5	炎症1(形態学的変化)				
6	炎症2(分類)				
7	免疫1(免疫担当細胞、抗体の種類と働き)				
8	免疫2(免疫異常、特にアレルギー)				
9	腫瘍(腫瘍細胞の特徴、良性と悪性の違い)				
10	先天異常(遺伝性疾患と染色体異常)				
評価方法	期末テストの成績				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	一般臨床医学 I		必修	1年前期	15コマ・30時間
担当教員	武藤友和	背景	理学療法士25年		
授業形態	講義、グループワーク	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書:特になし 参考書:PT・OT・STのための 一般臨床医学 第4版 医歯薬出版				
<b>授業概要</b> リハビリテーション治療の対象者は、複数の合併疾患を持っていることが多い。患者の臨床症状を理解するために必要な一般臨床医学について、グループ討論・発表の機会を設けることで理解を深める。					
<b>狙いと到達目標</b> 患者の持つ様々な合併症を理解することで個人の能力や障害等にどのように影響しているのか、評価・考察するための論理的な思考を身につけることを目標とする。また、グループワークを通して自分の考えを表現することと他者の考えを感じることができ、将来のセラピストとして必要な医学知識を幅広く身に着けることを目標とする。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 臨床経験から様々な合併症がリハビリテーション治療に及ぼす影響について具体的に提示していく。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	オリエンテーション、総論、保健医療福祉、医療安全、感染対策				
2	病態の共通構造、加齢変化、多疾患併存など				
3	症候学(疼痛・呼吸困難・意識障害・浮腫・発熱等)				
4	バイタルサインと全身状態について				
5	検査の見方(血液・尿+生理検査など)				
6	画像検査の基礎(X線、CT、MRIなど)				
7	薬物療法①(鎮痛、循環器等)+ポリファーマシー				
8	薬物療法②(神経系、精神等)				
9	栄養・代謝+フレイル・サルコペニア				
10	内部障害と臨床医学				
11	周術期・外傷と臨床医学				
12	中枢神経障害と臨床医学				
13	精神・認知障害の臨床医学				
14	救急・急変対応、災害医療・災害リハビリテーション				
15	がんと臨床医学、まとめ				
評価方法	授業・グループワーク参加状況(20%)、小テスト・期末(80%)				
自由記述 (メッセージ)	体のつくりや疾患(病気)や医療用語などはじめて学習することが多いですが、しっかり復習をして知識を定着させてください。また、グループワークには積極的に参加し自分の考えを表現することを身に付けましょう。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	内科学		必修	1年後期	20コマ・40時間
担当教員	水野 一也	背景	基礎医学研究28年／臨床医15年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 内科学 医学書院				
<b>授業概要</b> 医療はチームで成り立っており、構成するメンバーが情報共有することを必要としています。内科学の授業を通じて個々の利用者さんの身体の中で何かおこっているかについて想像力を身に着け医療現場とフィードバックできることを目指します。					
<b>狙いと到達目標</b> 慢性疾患の中でも高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病について十分な理解をしていただきます。さらに内科疾患発症において共通基盤と考えられる慢性炎症と血管障害の役割について十分な説明を心がけます。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 臨床医学の世界では診断名がつけられますが、実臨床では表にれている症状(高血圧、高血糖など)は同じでも、実際とその症状をもたらす機序は患者さんによって異なります。診断名と実際の病態との偏りを少しでも紹介して行きます。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	総論				
2	総論				
3	各論:循環器疾患				
4	各論:循環器疾患				
5	各論:呼吸器疾患				
6	各論:呼吸器疾患				
7	各論:消化器疾患				
8	各論:消化器疾患				
9	各論:肝臓・胆道・膵臓疾患				
10	各論:肝臓・胆道・膵臓疾患				
11	各論:血液疾患				
12	各論:血液疾患				
13	各論:代謝疾患(とくに糖尿病、脂質異常症)				
14	各論:代謝疾患(とくに糖尿病、脂質異常症)				
15	各論:内分泌疾患				
16	各論:腎臓・泌尿器疾患				
17	各論:腎臓・泌尿器疾患				
18	各論:免疫疾患				
19	各論:免疫疾患				
20	各論:感染症				
評価方法	基本的に期末試験100%				
自由記述 (メッセージ)	臨床の現場では、患者さんに応じて、状況に応じて考えること、決断することが大切です。本授業がそういった想像力、決断力を身につける一助になってくれればうれしく思います。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	整形外科学		必修	1年後期	20コマ・40時間
担当教員	柳澤雅弘・阿部幸一郎 坂本千寿	背景	柳澤 医学の基礎研究 阿部 作業療法士、坂本 理学療法士		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 整形外科学第5版				
<b>授業概要</b> 骨、関節の疾患と傷害について、その病態と治療について学ぶ。さらに骨折や脱臼に伴う神経や血管の損傷についても学ぶ。					
<b>狙いと到達目標</b> 整形外科疾患の専門用語が理解できる。基礎的な疾患の病態が理解できる。 主要な疾患に対するOTの役割をイメージできる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
<b>授業計画・内容</b> （授業の順番は変更になることがあります）					
1	骨、軟骨、関節の構造（柳澤）				
2	骨格筋の構造と機能、骨・関節・筋・神経のお病態生理（柳澤）				
3	運動器の評価法と検査法（四肢長と周径、関節可動域、筋力、神経学的評価）（柳澤）				
4	運動器の評価法と検査法（問診、触診、検体検査、画像検査）（柳澤）				
5	整形外科治療法（保存療法、手術療法）（柳澤）				
6	炎症性疾患（関節リウマチは除く）、先天性骨・関節疾患（柳澤）				
7	骨・軟部腫瘍（柳澤）				
8	頸椎、胸椎の疾患（柳澤）				
9	腰椎の疾患（柳澤）				
10	脊髄損傷（病態、症状）（柳澤）				
11	脊髄損傷（治療）（柳澤）				
12	熱傷、切断及び離断（柳澤）				
13	骨折、関節における外傷性疾患（坂本）				
14	代謝、内分泌性疾患、退行性疾患（坂本）				
15	腱・靭帯における外傷性疾患（坂本）				
16	スポーツ傷害 循環障害と壊死性疾患（坂本）				
17	炎症性疾患（関節リウマチ）、外傷による循環障害（阿部）				
18	神経・筋疾患、骨折（前腕・手）、筋・腱・靭帯損傷（阿部）				
19	末梢神経における外傷性疾患（阿部）				
20	末梢神経における外傷性疾患（阿部）				
評価方法	期末筆記試験（柳澤60点 阿部・坂本40点満点） 合計点数が60点以上、かつそれぞれの担当において6割以上であるものを合格とする。				
<b>自由記述</b> （メッセージ）					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	神経内科学		必修	1年後期	20コマ・40時間
担当教員	渡邊 利明	背景	臨床・基礎研究および教育経験をふまえて医学教育に従事		
授業形態	講義	実務家教員 でない			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 医学書院				
<b>授業概要</b> (A)社会的基礎能力:医学の社会的側面における疾病の環境、心身の成長を治療方針の一環として神経内科学を徹底的に理解する。 (B)自己実現能力:作業療法士国家試験の基礎・一般科目の内容にある神経内科学は、非常に重要な科目でありぜひとも必要な学習内容である。 (C)医療の本質は医療の根本である「ヒトを診る」ことに関して基本をなすものである。神経内科学は医療従事者としての第一歩の学問である。 これらの授業に関し、米国で臨床科学の教育・研究留学経験を生かした内容を含んだ教授をおこなう。					
<b>狙いと到達目標</b> 神経解剖学・神経生理学の知識と理解に基づいた神経内科学を学習する。					
授業において実務経験をどのように生かすか 医学的知識を地道に社会に生かす。このことを実践できる学問であることは確かである。その自覚をもつ。 生理学の基礎を学ぶことにより、論理的な思考力や社会科学に対する探究力を養う。ことで、患者さんに対する論理的な思考力や社会科学に対する探究力を養う。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	運動機能の障害 運動麻痺と筋萎縮、脊髄損傷の症候学①				
2	運動機能の障害 運動麻痺と筋萎縮、脊髄損傷の症候学②				
3	運動機能の障害 運動失調、不随意運動				
4	神経の障害 運動・自律系機能の障害				
5	高次脳機能障害①				
6	高次脳機能障害②				
7	中間試験				
8	脳血管障害 概観①				
9	脳血管障害 概観②				
10	脳血管障害 脳梗塞、脳腫瘍①				
11	脳血管障害 脳梗塞、脳腫瘍②				
12	外傷性疾患①				
13	外傷性疾患②				
14	神経変性疾患 脊髄小脳変性症①				
15	神経変性疾患 脊髄小脳変性症②				
16	脱髄性疾患①				
17	脱髄性疾患②				
18	ミオパチー(筋疾患)、先天性疾患、感染性神経疾患①				
19	ミオパチー(筋疾患)、先天性疾患、感染性神経疾患②				
20	まとめ				
評価方法	筆記試験と随時行うレポート提出				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	精神医学		必修	1年後期	20コマ・40時間
担当教員	越智哲夫	背景	精神科コメディカルとして40年勤務		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版(医学書院)				
<b>授業概要</b> 精神医学についての座学的な知識を理解するだけではなく、精神障害当事者の方の情報などからより実践的な精神医学を知る。					
<b>狙いと到達目標</b> 指定教科書に基づき、精神医学についての総論的理解および各論にわたり知識を習得する。 授業において実務経験をどのように生かすか より具体的に精神科領域の知識を習得できるように精神科医療と精神保険福祉領域における実務経験を生かす。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	精神医学とは・精神障害の成因と分類				
2	精神機能の障害と精神症状				
3	欲動および意志とその障害				
4	精神障害の診断と評価				
5	脳器質性精神障害				
6	症状性精神障害				
7	精神作用物質による精神および行動の障害				
8	てんかん				
9	統合失調症およびその関連障害				
10	気分(感情)障害				
11	神経症性障害				
12	生理的障害および身体的要因に関連した障害				
13	成人のパーソナリティ・行動・性の障害				
14	精神遅滞[知的障害]				
15	心理的発達の障害				
16	コンサルテーション・リエゾン精神医学・心身医学				
17	ライフサイクルにおける精神医学				
18	精神障害の治療とリハビリテーション				
19	精神科保健医療と福祉, 職業リハビリテーション				
20	社会・文化とメンタルヘルス				
評価方法	筆記試験80% 授業態度20%				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	小児科学	必修	1年後期	15コマ・30時間	
担当教員	鈴木文晴	背景	小児科診療に従事して48年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版 医学書院 初回に配布するプリントに沿って講義を進める				
授業概要					
1.小児の成長発達の学習 2.小児疾患、特に神経系疾患の学習とリハビリの実務とを学習する。					
狙いと到達目標					
1. 小児の正常な発達、成長を理解する。 2. 小児特有の疾患について理解を深める。 3. 疾患を持つ小児、およびその家族や社会への関わり方を考える。					
授業において実務経験をどのように生かすか 実務で経験したことを教材にとり入れて使用する。					
授業計画・内容					
1	小児科学概論・小児保健学				
2	小児の発達と成長 発達の評価方法・発達テスト				
3	予防接種の種類とうける年齢、渡航医学				
4	心肺停止時の応急手当 新生児・低出生体重児の医学				
5	先天異常・遺伝性疾患				
6	二分脊椎				
7	てんかん				
8	脳性麻痺・摂食嚥下機能とリハビリテーション				
9	脊髄性筋萎縮症・筋ジストロフィー				
10	知的障害・学習障害				
11	自閉症 多動症				
12	循環器 呼吸器				
13	感染症 アレルギー				
14	睡眠 虐待 重症心身障害児・医療的ケア児				
15	視力・聴力の疾患				
評価方法	中間テストを2回、講義終了後に期末テスト、合計3かいのテストを行い、合計に成績をつける。				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床心理学		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	佐藤俊之	背景	作業療法士	公認心理士	精神保健福祉士
授業形態	講義+グループワーク	実務家教員 である			
受講ルール	私語をつつしむ 教室の出入りはつつしむ				
受講条件	特になし				
教科書等	臨床心理学(有斐閣)				
<p>授業概要</p> <p>基礎理論を学び、援助的領域ひの活動場面において役立てる内容を提供する。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <p>臨床心理学の基本を理解し、支援を必要としている方々への理解を深め、適切に基礎知識を活用できるようにする。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>基本を理解し、支援を必要としている方々への理解を深めるために適切に できること。</p>					
<p>授業計画・内容</p>					
1	臨床心理学とは				
2	臨床場面における人間理解 (1)防衛機制について				
3	(2)発達段階と課題				
4	臨床心理学の技法 (1)知能検査				
5	(2)質問紙、投影法				
6	(3)作業検査法				
7	臨床心理学の技法:心理療法 (1)精神分析				
8	(2)来談者中心療法				
9	(3)認知行動療法				
10	障害受容の過程				
評価方法	<p>期末テスト:80%</p> <p>講義後の小テスト・授業中の態度:20%</p>				
自由記述 (メッセージ)	対人援助職として、心理学の基本的な知識を有り、活用してほしい。				

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	リハビリテーション概論		必修	1年前期	20コマ・40時間
担当教員	中村・佐々木・倉持・品川 菅原・井上・竹谷		背景	全員実務経験 5年以上	
授業形態	講義		実務家教員 である		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	15レクチャーシリーズ作業療法テキスト 作業療法概論 中山書店				
<p><b>授業概要</b></p> <p>リハビリテーションの定義や分野ごとの特徴、国際生活機能分類(ICF)、関連する保険制度および障害学の基礎を学ぶ。あわせて、リハビリテーションに関わる多職種役割と連携について、外部講師の講義を通して理解を深める。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b></p> <p>本授業は、リハビリテーションの基本概念と全体像を理解することを目的とする。 リハビリテーションの定義や分野ごとの特徴、国際生活機能分類(ICF)、関連する保険制度、障害学の考え方を学ぶことで、「生活を支える専門職としてのリハビリテーション」を多角的に捉える視点を養う。また、リハビリテーションに関わる他職種役割や連携について、外部講師の講義を通して理解し、将来チームの一員として活動するための基礎的態度を形成する。</p>					
<p><b>授業において実務経験をどのように生かすか</b></p> <p>作業療法士としての臨床経験(急性期総合病院、介護老人保健施設、訪問リハビリテーション)を有する。これらの実務経験を基に、各リハビリテーション分野の特徴や専門職役割、制度との関係について具体的事例を交えて解説する。</p>					
<p><b>授業計画・内容</b> (授業の順番は変更になることがあります)</p>					
1	リハビリテーションとは				
2	人の生活と作業				
3	国際生活機能分類(ICF)				
4	リハビリテーションに関連する医療・介護保険制度				
5	社会構造とリハビリテーション				
6	障害者の生活と自立				
7	理学療法サービス 理学療法とその実際① 竹谷				
8	理学療法サービス 理学療法とその実際② 竹谷				
9	理学療法サービス 理学療法とその実際③ 竹谷				
10	言語聴覚療法サービス 言語療法とその実際① 井上				
11	言語聴覚療法サービス 言語療法とその実際② 井上				
12	医師から見るリハビリテーション 菅原				
13	医師から見るリハビリテーション 菅原				
14	看護師から見るリハビリテーション 倉持				
15	看護師から見るリハビリテーション 倉持				
16	看護師から見るリハビリテーション 倉持				
17	介護福祉士から見るリハビリテーション 品川				
18	介護福祉士から見るリハビリテーション 品川				
19	作業療法の可能性① 佐々木				
20	作業療法の可能性② 佐々木				
評価方法	各回の授業終了後に振り返りシートを提出させ、その内容をもとに評価を行う。 振り返りシートは、授業内容の理解度、自己の考察、他職種や作業療法士の役割に関する気づき等を評価対象とする。 1回あたり5点とし、全20回の合計点(100点満点)により成績評価を行う。				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業療法概論		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	中村 由美	背景	作業療法士歴 5年以上		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	15レクチャーシリーズ作業療法テキスト 作業療法概論 中山書店				
<b>授業概要</b> 作業療法の基本的な枠組み、歴史・理論、対象領域および実践場面を概観し、作業療法士の役割と専門性を学ぶ。急性期・回復期・維持期・在宅・福祉施設・介護予防など多様な臨床場面を通して、作業療法における「評価」と「支援」の考え方を学び、将来求められる作業療法士像について考察する。					
<b>狙いと到達目標</b> 本授業を通して、作業療法の全体像を理解し、作業療法士が対象者の生活をどのように支援する専門職であるかを説明できるようになる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 作業療法士としての臨床経験(急性期総合病院、介護老人保健施設、訪問リハビリテーション)を有しており、これらの実務経験を基に、各領域の特徴や作業療法士の役割、制度との関係について、臨床場面を想定した具体的事例を用いて解説する。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	作業療法の基本的な枠組み				
2	作業療法の対象領域と疾患				
3	作業療法の歴史と理論				
4	作業療法の実際① (急性期・回復期)				
5	作業療法の実際② (維持期・在宅)				
6	作業療法の実際③ (福祉施設)				
7	作業療法の実際④ (介護予防)				
8	作業療法における評価の意義① (からだ編)				
9	作業療法における評価の意義② (こころ編)				
10	求められる作業療法士とは？				
評価方法	筆記試験:80% 提出物(全10回分):20% ・提出物は各授業後、原則として翌日9:30までに提出すること。 ・授業に欠席した場合は提出できません。 ※やむを得ない理由で欠席した場合は、教員に相談すること。				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	基礎作業学		必修	1年後期	10コマ・20時間
担当教員	加藤 和貴	背景	作業療法士 5年以上		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	日常生活における作業を意識しておく				
教科書等	ひとと作業・作業活動 新版 三輪書店 参考書:ゴールドマスターテキスト 作業学 第三版 メジカルビュー社 「作業」って何だろう 第二版 作業科学入門 医歯薬出版株式会社				
<p><b>授業概要</b> 作業療法において作業活動を治療・援助に活用するための基礎を学び、作業療法における作業について考える。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b> 身近な作業について、分類や階層性を説明できる。 作業について、その意味を知り人間の発達や生活との関わりを説明できる 作業療法の援助技術としての指導法の基礎を説明できる</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>対象者について考える上で、対象者を作業的存在としてとらえる大切さを実務経験から学んだ。その為の一般的な作業を作業療法の視点で捉える要点を提示していく。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	作業学総論「作業って何？」授業概要の説明、作業の定義・分類を知る				
2	人と作業 (1) 作業の種類と構成を理解する①				
3	作業の種類と構成を理解する②				
4	人と作業 (2) 作業を分析的な視点から考える①				
5	人と作業 作業を分析的な視点から考える②				
6	作業の効果と治療的応用 作業の持つ効果と適応について学ぶ				
7	身近な作業について考える 作業効率と工夫について				
8	学習理論①				
9	学習理論②				
10	まとめ 質疑応答				
評価方法	筆記テスト				
自由記述 (メッセージ)	人間は作業的存在といわれます。作業療法では人は「～する存在」と捉えます。皆さんは今朝からこの文章を読むまでどんなことをしてきましたか？いくつかの作業をしてきたのではないのでしょうか。まずは身の回りのことから「作業」というものについて考えていきたいと思えます。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	基礎作業学実習 I		必修	1年通年	30コマ・60時間
担当教員	陶芸:井口豊重 木工:青木量二	背景	青木作業実績30年以上、 井口作業実績15年		
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+動きやすく汚れても良い服装+つけ爪やネイルアートは不可				
受講条件	特になし				
教科書等	「改定新版 基礎からわかる はじめての陶芸」発行(株)Gakken				
授業概要	<p>基礎作業学で学ぶ内容を基本として、作業療法的手段として用いられる代表的な種目に関して、具体的にその手順と行程を知り、実習を通して基礎・基本を身につける。</p> <p>狙いと到達目標</p> <p>技法の基本(特性、必要な身体機能・精神機能、材料・器具の特徴と使用法など)を学ぶ。 課題作品の制作プロセスを大切に完成させて得られる達成感を体験する。</p> <p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>長年の制作活動で得た知識と技術を、分かりやすい言葉と演示で伝えて技法の習得に生かす。 失敗を恐れず挑戦する姿勢で実習できるようにする。緊張感の中にも和める実習を目指す。</p>				
授業計画・内容	<p>1・2 陶芸① 講義:やきものとは、粘土、作業工程、道具 実習:玉作り、ひも作り</p> <p>3・4 陶芸② 講義:粘土の練り方、素焼き 実習:タタラ作り、素焼き(1)の窯詰め</p> <p>5・6 陶芸③ 講義:装飾、釉薬 実習:素焼き(1)窯出し、釉薬がけ、本焼き(1)窯詰め</p> <p>7・8 陶芸④ 講義:本焼き、電動ろくろ 実習:電動ろくろ、本焼き(1)窯出し</p> <p>9・10 陶芸⑤ 講義:電動ろくろ 実習:電動ろくろ、自由作品制作(玉、ひも、タタラ作り)</p> <p>11・12 陶芸⑥ 実習:電動ろくろ、自由作品制作(玉、ひも、タタラ作り)、素焼き(2)窯詰め</p> <p>13・14 陶芸⑦ 実習:素焼き(2)窯出し、装飾、釉薬がけ、本焼き(2)窯詰め</p> <p>15 陶芸⑧ 講義:課題レポートについて 実習:本焼き(2)窯出し、作品評価</p> <p>16・17 工具の配布と工具の説明、両刃鋸の使い方</p> <p>18・19 鉋の使い方(スコヤ・けびき含)</p> <p>20・21 胴付鋸・のみの使い方</p> <p>22・23 十字相欠の練習</p> <p>24・25 十字相欠の製作</p> <p>26 本立の木取</p> <p>27・28・29・30 本立の製作</p>				
評価方法	陶芸:出席・作品・レポート	木工:出席・作品	各種目100点満点で合算		
自由記述 (メッセージ)	陶芸と木工を楽しみましょう。実習ではお互いに対象者の立場で困りごとや達成感を感じたり、対人援助職の立場で適切な支援や声掛けを試みて下さい。				

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	基礎作業学実習Ⅱ		必修	1年後期	30コマ・60時間
担当教員	佐々木康友・温井恵	背景	作業療法士歴15年以上		
授業形態	実技	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 第3版 (メジカルビュー社)				
<b>授業概要</b> 作業療法の治療・支援の手段として用いられる様々な作業活動について、実際に体験し、作業分析を行い検討することで、作業分析の視点を身につける。					
<b>狙いと到達目標</b> 作業活動は作業療法における治療・支援の手段である。個々の対象者にとって意味のある作業活動を提供するために、様々な作業活動の持つ意味や特性を十分理解し、これを自分なりに表現できるようになることを到達目標とする。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 対象者が作業に楽しく集中できるようにするための工夫(作業に対する理解を深めること、想像して準備をすること、実習中の配慮・心配り等々)や、作業分析の視点を現場に即して伝えていく。					
<b>授業計画・内容</b>					
1～2	オリエンテーション、作業環境と作業分析				
3～20	塗り絵や革細工など様々な作業活動を実際に体験し、作業分析を行い作業の持つ意味や特性について検討する				
21～26	作業選択と調査、準備、作品作り				
27～28	スライド作成時間				
29～30	スライド発表				
評価方法	スライド40%、試験60%				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	身体障害作業療法評価学実習Ⅰ	必修	1年 後期	30コマ・60時間	
担当教員	竹本龍太	背景	作業療法士歴10年以上		
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール・実習着ルール				
受講条件	ROM授業時、ゴニオメーター持参				
教科書等	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版 (医学書院) 新・徒手筋力検査法 原著第10版 (エルゼビア・ジャパン)				
<p><b>授業概要</b></p> <p>身体機能領域における作業療法評価学の基礎となる関節可動域測定(以下ROM)、徒手筋力検査(以下MMT)、バイタルサイン、形態測定の手順、留意点、記録方法、効果判定を動画予習による反転授業、学生2～3人1組の実技形式中心で学ぶ。「ROM」、「意識、臨床検査値の読み方」「MMT」はそれぞれ小テスト(筆記)を実施する。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b></p> <p>身体機能領域における作業療法評価学の基礎を学び、2年次で履修する各種疾患に対する評価方法習得へと繋げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関節の運動面と運動方向を理解し、説明することができる。</li> <li>・対象者の全身状態を把握するため、意識障害、バイタルサイン、異常検査値を見分けられる。</li> <li>・クラスメイトに「ROM」「MMT」「バイタルサインの測定」を実施し、その結果を記録できる。</li> </ul>					
<p><b>授業において実務経験をどのように生かすか</b></p> <p>病院(身体障害領域)での回復期、急性期、外来リハの臨床経験から教科書的知識と臨床場面での実情を織り交ぜながら実技指導を行う。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	ROMの基礎知識と測定手順				
2	ROM(肩 屈曲/伸展、外転/内転)				
3	ROM(肩 外旋/内旋、水平屈曲/水平伸展)				
4	ROM(前腕 回内/回外、肩甲帯 屈曲/伸展、挙上/引き下げ(下制))				
5	ROM(手関節 掌屈/伸展、橈屈/尺屈)(肘屈曲/伸展)				
6	ROM(指 MP・PIP・DIP屈曲/伸展、外転/内転、別法(屈曲/外転))				
7	ROM(母指橈側外転/尺側内転、掌側外転/内転、MCP・IP屈曲/伸展)				
8	ROM(股 屈曲/伸展、外転/内転、外旋/内旋)				
9	ROM(膝 屈曲/伸展、足 底屈/背屈、足部 外/内がえし、外転/内転)				
10	ROM(頸部 前屈/後屈、回旋、側屈)				
11	ROM(胸腰部前屈/後屈、回旋、側屈)				
12	まとめ・小テスト(ROM)				
13	意識の評価/臨床検査値/形態計測				
14	バイタルサインの測定(血圧、脈、呼吸、Spo2)				
15	まとめ・小テスト(意識/臨床検査値/形態計測/バイタルサイン)				

16	MMTの基礎知識と測定手順
17	MMT(肩 屈曲/伸展、外転)
18	MMT(肩 外旋/内旋、水平外転/水平内転)
19	MMT(肘屈曲/伸展)(前腕回外/回内)
20	MMT(手関節屈曲/伸展)(PIPおよびDIP屈曲、MP伸展/屈曲)
21	MMT(指外転/内転)(母指MPおよびIP屈曲/伸展、外転/内転、対立)
22	MMT(肩甲骨外転と上方回旋、肩甲骨挙上、肩甲骨内転、肩甲骨下制と内転)
23	MMT(肩甲骨内転と下方回旋)(膝屈曲/伸展)(股関節屈曲)
24	MMT(股関節屈曲-外転-外旋-膝屈曲、伸展、外転、屈曲位からの外転)
25	MMT(股関節内転、外旋/内旋)(足関節底屈)
26	MMT(足関節背屈と内がえし、内がえし、底屈を伴う外がえし)
27	MMT(頭部伸展、頸部伸展、頭部屈曲、頸部屈曲、頸部回旋)
28	MMT(体幹伸展(腰椎・胸椎)、骨盤挙上、体幹屈曲/回旋)
29	まとめ・小テスト(MMT)
30	実技練習
評価方法	実技試験100% ※小テスト6割未満の場合は課題提出
自由記述 (メッセージ)	授業毎に配信する動画を事前学習して授業に臨んで下さい。この科目で教える内容は身体機能評価の中で、最も行う頻度が多い技術であり国家試験に頻出します。 しっかり身につけましょう。 *スケジュールは進行の都合上で前後する場合があります。

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床作業療法演習 I	必修	1年後期	20コマ・40時間	
担当教員	佐々木康友	背景	作業療法士歴15年以上		
授業形態	実習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール、感染症対策に留意すること				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし				
<b>授業概要</b> 3日間、作業療法の臨床現場に出向き作業療法士の指導の下、検査・観察・面接の一部を体験する。リハビリテーションの各領域の現状を学習する。					
<b>狙いと到達目標</b> 作業療法臨床の現状への理解と見聞を深める。作業療法士の働きと対象疾患、作業療法で用いられる活動・道具への関心を高める。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 臨床での指導経験を生かし、学生が円滑に演習に臨めるよう配慮する。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	実習前オリエンテーション(実習への心構えをつくり、ルール等を確認する)				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
18	実習結果をまとめクラスの中で発表する。実習結果について振り返り、講評・指導を受ける。				
19					
20					
評価方法	演習評定表、セミナー発表等				
自由記述 (メッセージ)	学生、社会人としてのマナー・態度に十分留意して実習に臨むこと。				

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	コミュニケーション論Ⅱ	必修	2年通年	20コマ・40時間	
担当教員	山下 久美子	背景	作業療法士歴 15年以上		
授業形態	共通ルール	実務家教員 である			
受講ルール	講義・演習				
受講条件	特になし				
教科書等	PT・OTのための実用・実践コミュニケーション術 金原出版株式会社 PT・OT・STのためのコミュニケーション実践ガイド第3版 医学書院				
<p><b>授業概要</b> 臨床現場では、チームワーク、コミュニケーション、対人マナーの他、状況に応じた判断・行動を求められます。授業を通じて、それらのスキルを身に付ける、客観的見つめる視点を養っていきたいと思いま</p> <p><b>狙いと到達目標</b> 学園祭の企画運営を通じ、チームワークの重要性を再認識できる。社会人としてのマナーを身に付けることができる。状況を分析し、最適な思考・行動を理解することができる。</p> <p>授業において実務経験をどのように生かすか 臨床現場で求められる、チームワーク、コミュニケーション、報連相、対人マナー、基本的な診療記録の書き方などのスキルを演習を通じて会得し、臨床実習においても臨床現場に就職後も活かす。</p> <p><b>授業計画・内容</b></p>					
1	組織内のコミュニケーション1(クラス運営に向けての目標とビジョンの共有)				
2	自分を理解する1(社会人基礎力自己点検、エゴグラム分析など)				
3	他者からみた自分(逆エゴグラム、ジョハリの窓、フィードバックを受ける)				
4					
5	学園祭の企画・運営・振り返り				
6					
7	秘密を守る・社会人のマナー				
8	SOAPの書き方				
9	MTDLP(インテーク)				
10					
11					
12					
13					
14					
15	メタ認知トレーニング				
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法	各授業内提出物にて評定します。				
自由記述 (メッセージ)	臨床で長く活躍する作業療法士を目指して、状況に適したふるまいができるように、自身を客観的に見つめる力を身に付けていきましょう。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	運動学実習		必修	2年前期	30コマ・60時間
担当教員	武藤友和	背景	理学療法士歴25年		
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書:特になし(授業ごとに資料を配布する) 参考書:運動からだ図解 リハビリで役立つ 動作分析の基本 第1版 (マイナビ)				
<b>授業概要</b> 身体機能評価として身体計測、筋力測定、関節可動域測定、運動麻痺のグレード評価、そして動作分析を含め一連の評価として行えるよう触診を含めグループワークを中心に実習を行う。					
<b>狙いと到達目標</b> 運動学・解剖学の知識を応用し、身体機能評価および動作分析の方法についての確認・実習を行い、治療プログラムを立案するための検査結果を正確に収集できるようになる。 身体運動における着眼点を理解し、動作分析が行えるようになる。各運動について、働く筋やその筋の起始・停止・支配神経を述べるができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 臨床での実践的な身体機能評価・動作分析の技術についての授業を行う。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	オリエンテーション、運動学的な表現について(グループワーク)				
2	身体機能評価総論				
3	上肢の触診、上肢の肢長、周径の計測(グループワーク)				
4	下肢の触診、下肢の肢長、周径の計測(グループワーク)				
5	肩・肘・手関節の可動域測定(グループワーク)				
6	肩・肘・手関節の可動域測定(グループワーク)				
7	股・膝・足関節の可動域測定(グループワーク)				
8	股・膝・足関節の可動域測定(グループワーク)				
9	肩・肘・手関節の筋力測定(グループワーク)				
10	肩・肘・手関節の筋力測定(グループワーク)				
11	股・膝・足関節の筋力測定(グループワーク)				
12	股・膝・足関節の筋力測定(グループワーク)				
13	関節可動域測定・筋力測定まとめ①(グループワーク)				
14	関節可動域測定・筋力測定まとめ②(グループワーク)				
15	中枢性運動麻痺について、片麻痺機能評価総論				
16	ブルンストローム・ステージテスト(グループワーク)				

17	ブルンストローム・ステージテスト(グループワーク)
18	基本動作(寝返り、起き上がり、立ち上がり、着座)とは、動作分析概論
19	運動器疾患患者の寝返り・起き上がり動作の分析(グループワーク)
20	運動器疾患患者の寝返り・起き上がり動作の分析(グループワーク)
21	運動器疾患患者の立ち上がり動作の分析(グループワーク)
22	運動器疾患患者の立ち上がり動作の分析(グループワーク)
23	中枢神経疾患患者の寝返り・起き上がり動作の分析(グループワーク)
24	中枢神経疾患患者の寝返り・起き上がり動作の分析(グループワーク)
25	中枢神経疾患患者の立ち上がり動作の分析(グループワーク)
26	中枢神経疾患患者の立ち上がり動作の分析(グループワーク)
27	歩行動作の分析①(グループワーク)
28	歩行動作の分析②(グループワーク)
29	歩行動作の分析③(グループワーク)
30	まとめ
評価方法	授業・グループワーク参加状況(60%)、レポート課題(40%)
自由記述 (メッセージ)	実技練習、症例の動画を使った動作分析練習がメインの授業になります。解剖学・運動学の復習をし授業に臨んでください。

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	保健医療福祉概論		必修	2年前期	20コマ・40時間
担当教員	藤森徳子	背景	公立小学校において発達障害児支援		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	『医療福祉サービス ガイドブック』医学書院				
<p><b>授業概要</b>            保健医療福祉の制度やサービスを理解するとともに、その対象となる方々について理解(対象観)することにより、より深く「保健医療福祉」を理解する。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b>            ・保健・医療・福祉の領域で必要な関連法や制度、社会資源について理解ができるようになる。            ・保健・医療・福祉の領域のサービス内容について理解できるようになる。            ・保健・医療・福祉の領域に関連する専門職との連携などについて理解できるようになる。</p>					
<p><b>授業において実務経験をどのように生かすか</b>            都内の公立小学校において、発達障害のある子どもたちの日常生活の介助や学習支援を行っています。            発達障害に限らず、保健医療福祉の対象となる方は様々な生活のしずらさ、生きずらさを抱えています。当事者だけをみるのではなく、「家族」に対する支援も包括的に考えていく必要があると感じています。それらの経験をふまえて、現在の保健医療福祉の現状を広い視点で伝えられるように講義や演習の中で活かしていきます。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	社会福祉とは①	社会福祉と日本国憲法、社会福祉の理念			
2	社会福祉とは②	社会福祉の支援体制、実施機関			
3	社会保障	社会保障、地域包括ケアシステム			
4	医療サービス①	地域保健法、医療観察法、MSW			
5	医療サービス②	医療提供の仕組み、病棟・病床の種類			
6	医療サービス③	精神科における医療サービス			
7	生活としごと①	公的扶助と生活保護法、原理・原則			
8	生活としごと②	生活保護給付、生活困窮者自立支援制度			
9	高齢者サービス①	介護保険、特定疾病			
10	高齢者サービス②	介護認定、要介護の種類			
11	高齢者サービス③	介護保険サービス、介護予防			
12	高齢者サービス④	地域包括支援センター、高齢者虐待防止法			
13	障害児・者サービス①	障害の種類、手帳制度			
14	障害児・者サービス②	相談窓口、サービス利用までの流れ			
15	障害児・者サービス③	障害者総合支援法			
16	障害児・者サービス④	障害者雇用、就労支援方法と実施機関			
17	子ども・家庭のために①	相談窓口、医療費助成			
18	子ども・家庭のために②	児童福祉施設、児童福祉サービス			
19	子ども・家庭のために③	児童福祉の行政機関、児童虐待防止法			
20	子ども・家庭のために④	児童福祉の行政機関、児童虐待防止法			
評価方法	筆記試験および授業態度や演習的学習への参加状況により総合的に評価を行う。				
自由記述 (メッセージ)	保健医療福祉の動向は、その時々々の社会状況と密接に関わっています。世の中で起きている出来事に、日頃からアンテナを張っておきましょう。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業学	必修	2年前期	10コマ・20時間	
担当教員	加藤和貴・温井恵・山下久美子		背景	作業療法士 5年以上	
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	日常生活における作業を意識しておく				
教科書等	ひとと作業・作業活動 新版 三輪書店 参考書:ゴールド・マスター・テキスト 作業学 第3版 メジカルビュー社				
<p>授業概要</p> <p>基礎作業学で学んだ作業活動の治療的応用についての学びをより深め、作業分析を試み考察する。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <p>基礎作業学での学びを基に作業の特性について考え、その意味性について説明できる。作業について分析を行い考察ができる。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>作業療法において対象者を作業的存在としてとらえる大切さを実務経験から学んだ。作業療法の視点で作業を捉える要点を提示していく。</p>					
授業計画・内容					
1	作業療法における作業				
2	作業分析の理論 AMPS				
3	各論 精神領域① 精神領域における作業				
4	各論 精神領域② 限定的作業分析 グループワーク				
5	包括的作業分析 コラージュ				
6	包括的作業分析 分析 グループワーク				
7	包括的作業分析 発表 グループワーク 振り返り まとめ				
8	各論 身体領域① 身体領域における作業(山下)				
9	各論 身体領域② 限定的作業分析(山下)				
10	各論 発達領域 発達領域における作業 (温井)				
評価方法	レポート(50%)・筆記テスト(50%)を併せて評価する				
自由記述 (メッセージ)	作業療法を勉強して一年が経ちました。暮らしの中での様々な営みを「作業」として捉えることができているでしょうか。この講義では基礎作業学での学びを礎に、実際に作業分析を行い理解を深めていきます。身近な事柄から般化し、作業療法士としての視点について考えていきます。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	身体障害作業療法評価学		必修	2年前期	10コマ・20時間
担当教員	山下久美子	背景	作業療法士歴 15年以上		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第4版(医学書院) 参考書:からだが見える 第1版(メディックメディア)				
<b>授業概要</b> 各評価・検査をおこなう意義、具体的な実施手技の理解を学んだ上で、評価・検査結果からどのようなことが言えるのか臨床推論をグループワークで深める。					
<b>狙いと到達目標</b> ①各評価・検査を行う意義を説明することができる ②各評価の手順をリスク管理も交えながら説明することができる ③検査データの数値を読み解く、また、画像評価の正常画像と異常画像の鑑別ができる					
授業において実務経験をどのように生かすか 教科書の知識に留まらず臨床で活用するため、評価の思考・手技の理解や検査結果よりどのような疾患、障害が考えられるのか、自身の臨床経験を活かし臨床推論を展開できるように指導する。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	オリエンテーション・作業療法の実践課程・記録の書き方(SOAP)				
2	画像評価①				
3	画像評価②				
4	反射検査				
5	姿勢反射検査				
6	感覚検査				
7	脳神経検査				
8	脊髄損傷・上肢の末梢神経障害の評価				
9	関節リウマチおよびその類縁疾患の評価、検査データの診かた				
10	その他の疾患の評価				
評価方法	授業内提出物20%、定期筆記試験80%とし、前述を合算し60%を合格とする。				
自由記述 (メッセージ)	臨床現場において必要な知識、評価の思考、手技を身に付け、評価結果から何が言えるのか推論できるようになってもらいたと思います。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	精神障害作業療法評価学		必修	2年通年	20コマ・40時間
担当教員	加藤 和貴	背景	作業療法士 5年以上		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書: 精神疾患の理解と精神科作業療法 朝田隆 他 中央法規出版 参考書: 精神障害と作業療法 山根寛 三輪書店				
授業概要					
精神領域における評価の視点を学び、それらを統合し全体像をとらえ考察を行う。					
狙いと到達目標					
精神障害領域における作業療法評価の基礎を学び、それを説明できる。 対象者を広い視野で共感的に理解する態度を養う。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
対象者について評価を行う上で、教科書に書かれている基本的な視点を実際に援用する際の要点について伝え、得られた結果から妥当性のある考察に辿りつく思考を養う。					
授業計画・内容					
1	授業概要 授業の流れを理解できる 自己を客観的に評価する				
2	精神科評価の特徴を説明できる				
3	観察の概要を学び実施する①				
4	観察の概要を学び実施する②				
5	面接の概要を学び実施できる 面接の形態について体験する				
6	情報収集の概要を説明できる				
7	精神機能の概要を説明できる				
8	身体機能の概要を説明できる				
9	集団と場について説明できる				
10	コミュニケーションの概要を説明できる				
11	防衛機制・欲求の階層について説明できる				
12	日常生活能力・社会生活能力について説明できる① グループワーク				
13	日常生活能力・社会生活能力について説明できる② グループワーク				
14	課題遂行能力・職業関連能力について説明できる				
15	全体像と考察を説明できる。事例を通し作業療法評価の基礎を確認する①				
16	全体像と考察を説明できる。事例を通し作業療法評価の基礎を確認する②				
17	CMOP 評価の流れについて確認する				
18	評価のまとめ ①				
19	評価のまとめ ②				
20	質疑応答 振り返り				
評価方法	筆記試験				
自由記述 (メッセージ)	「他者を評価する」この言葉から受ける印象はいかがでしょう。ある人は傲慢な印象を抱くかもしれません。しかし評価することなしに焦点を絞った援助はできません。病的側面だけを見て悪く評価をすることが誤りであることはもちろん、過剰に良く評価しすぎることも対象者の可能性を狭める可能性があります。適正な評価のためにも、まずは自分を客観的に捉えてみましょう。スタートラインは「自分と向き合うこと」です。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	発達障害作業療法評価学		必修	2年前期	10コマ・20時間
担当教員	温井 恵	背景	作業療法士歴23年		
授業形態	講義/演習	実務家教員	臨床10年		
受講ルール	共通ルール+実習着ルール(動きやすい服装で可)				
受講条件	事前課題が出される場合は取り組んだうえで参加すること				
教科書等	発達障害の作業療法 基礎編・実践編 第3版 三輪書店 イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社				
<p><b>授業概要</b></p> <p>社会の移り変わりとともに子どもが減少しているが、一方で医療の発展に伴い障害児が増加している昨今において障害を持つ子どもの社会参加支援は作業療法士としての大きな責務である。人が生まれ発達・成長していく過程を理解するとともに、グループワークやディスカッション、演習を通して障害の発生についての理解、その支援への実践につなげます。また誰しもが経験する幼少・学童期を振り返り、どのような発達背景があるのか基礎科目との繋がりに触れ、理解を深める。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正常発達を正しく理解し、時系列的なつながりについて説明が出来る。</li> <li>・観察から対象児のおおよその発育年齢(粗大運動・認知機能)を推察出来る。</li> <li>・対象児・者および家族の支援計画立案のため、必要な情報を収集、整理して全体像を把握し、説明することができる。</li> </ul>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>発達領域での実務経験(特別支援学校・教育機関巡回)を、講義内容と直接的に結びつけることで、学生の理論理解と実践の繋がりのイメージ構築に生かす。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	発達障害とは・・討論(Think pair share) 定義確認(自己学習)				
2					
3	粗大運動発達・・3・6・9・12Mの粗大運動発達 各グループワーク				
4					
5	感覚統合理論とは・・演習(レクリエーション室)感覚統合遊具の実践				
6	上肢機能発達・・討論(Think pair share) 定義確認(自己学習)				
7	摂食嚥下機能発達・・基礎知識確認(自己学習) 演習(摂食機能)				
8	認知機能発達・・討論(Think pair share) 定義確認(自己学習)				
9	社会性の発達・・討論(Think pair share) 定義確認(自己学習)				
10	ADL・学習基盤の発達・・1~9コマを通してのグループワーク 定義確認(自己学習)				
評価方法	授業内提出課題もしくは小テスト+定期試験(試験時のテキスト、資料の持ち込みは不可とする)の合計が60%以上にて合格 再試験範囲は全ての範囲とする				
自由記述 (メッセージ)	発達分野の作業療法は、今後日本の抱える少子化問題に対して大変重要な分野です。医療業界のみならず、福祉、教育、保育といった多くの分野から発達支援のニーズがあります。発達分野に携わるにあたって重要となる知識に興味を持ち、身に付け、臨床で活かしていけることを願います。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	身体障害作業療法評価学実習Ⅱ	必修	2年 前期	15コマ・ 30時間	
担当教員	山下久美子	背景	作業療法士歴 15年以上		
授業形態	実技	実務家教員 である。			
受講ルール	共通ルール・実習着ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第4版(医学書院)				
<b>授業概要</b> 身体機能領域における作業療法評価学とそれらを用いた臨床推論(クリニカルリーズニング)を動画予習による反転授業、学生2～3人1組の実技形式中心で学ぶ。 後半は症例を通して評価計画を立て、レポートの作成と発表を行う。					
<b>狙いと到達目標</b> 「治療」を実践するために、対象者の心身の状態と治療計画が適切に関係づけられることが重要である。 ・各種疾患に罹患した対象者の評価項目を選択することができる。 ・各種評価の判定を正しくおこなうことができる。 ・対象者に評価の方法、目的、結果をわかりやすく伝えることができる。 ・自身が計画した評価をレポートにまとめることができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 病院(身体障害領域での、急性期、回復期、外来リハでの臨床経験から各疾患の評価方法を事例を通して伝えていく。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	クリニカルリーズニングと目標設定・面接(ADOC)				
2-3	脳血管疾患の評価(総論)				
	Brunnstrom Recovery Stage(BRS)/筋緊張				
4-5	脳血管障害の評価(連合反応・共同運動)				
	脳卒中機能障害評価法(SIAS) Fugl-Meyer Assessment(FMA)の概要				
6-7	脳血管障害の評価(分離運動)				
8	感覚評価(触覚・位置覚)				
9-10	協調性検査(SARA、その他)				
11-12	上肢機能検査(STEF、MFT)				
13-14	【グループワーク】 評価計画立案/レポート作成				
15	発表・振り返り				
評価方法	評価計画(レポート・発表)30%、実技試験70% ※評価計画(レポート・発表)が6割未満の場合は課題提出 ※総合得点で不合格の場合は実技試験で再試				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	身体障害作業治療学Ⅰ		必修	2年前期	10コマ・20時間
担当教員	山下 久美子	背景	作業療法士歴15年以上		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版(医学書院)				
<b>授業概要</b> 作業療法における基本的な治療手技・原理について、目的・方法などを学ぶ。各講義ごとにペアで治療手技をおこない理解を深める。					
<b>狙いと到達目標</b> ・作業療法における基本的な治療手技・原理について理解することができる。 ・治療に適した物品を選択し、使用方法、リスクについて説明することができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 病院(身体障害領域での、急性期、回復期、外来リハ、通所リハ等)での臨床経験から各治療の機序、リスクを説明、伝授する。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	オリエンテーション・身体機能作業療法の基礎				
2	ボディメカニクス				
3	運動学習				
4	関節可動域訓練				
5	筋力増強訓練				
6	筋緊張異常とその治療				
7	不随意運動・協調性運動障害とその治療				
8	感覚知覚再教育				
9	廃用症候群とその治療・リスク管理				
10	摂食・嚥下障害とその治療、物理療法				
評価方法	授業内提出課題と定期筆記試験(試験時のテキスト、資料の持ち込みは不可とする)を合算し、60点以上を合格とする。				
自由記述 (メッセージ)	この授業で基礎的な治療原理・手技を理解し、疾患ごとの治療の理解(身体障害作業治療学Ⅱ)、実技(身体障害作業治療学実習)へと発展させてほしいと思います。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	身体障害作業治療学Ⅱ	必修	2年後期	20コマ・40時間	
担当教員	温井恵・竹本龍太 森田将健・田中将人	背景	作業療法士歴23年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 臨床10年			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	解剖学、生理学、神経内科学、整形学の復習				
教科書等	ゴールドマスター・テキスト 身体障害作業療法学 改訂第3版 メジカルビュー社 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版 医学書院 参考:病気が見える Vol.7 脳・神経 メディックメディア				
<b>授業概要</b> 身体障害領域において作業療法士が介入すべき疾患は非常に多様であり、かつ少子高齢化が進行する昨今において、社会復帰支援、就労就学支援をしていく事は責務である。それぞれの疾患、障害特性や関わり方について理解を深めるとともに、実践的な治療演習、グループワークを通して臨床現場において多様な症状に対応した評価治療が行えるスキルを身に付ける。また、臨床現場からの講師により実践的な実例や支援を聞くことで臨床思考過程を学ぶ機会としている。					
<b>狙いと到達目標</b> ・身体障害領域の各種疾患に起因する機能障害を理解し、その障害の改善や生活機能障害の軽減方法を説明できる。 ・評価学、治療学Ⅰからの学びを基礎に症例毎の作業療法治療について説明でき、その疾患に起因したキーワードを想起できる。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 身体領域での実務経験(急性期・回復期リハビリテーション病院勤務)を、講義内容と直接的に結びつけることで、学生の理論理解と実践の繋がりイメージ構築に生かす。					
<b>授業計画・内容 (授業の順番が変更になる場合があります)</b>					
1	治療とは・EBM・個人情報保護・インフォームドコンセント・討論(Think pair share)				
2~4	脳卒中の治療(急性期・回復期・生活期)・討論(Think pair share)調べ学習・演習				
5	筋萎縮性側索硬化症(ALS)の治療・討論(Think pair share)調べ学習・演習				
6	パーキンソン病(PD)の治療・討論(Think pair share)調べ学習・演習				
7	脊髄小脳変性症(SCD)の治療・討論(Think pair share)調べ学習・演習				
8~9	脱髄性疾患(MS・GBS)・多発性筋炎・皮膚筋炎・重症筋無力症(MG)の治療・討論(Think pair share)調べ学習・演習				
10~11	脊髄損傷(SCI)の治療・討論(Think pair share)調べ学習・演習				
12~14	関節リウマチ(RA)の治療・骨折の治療・末梢神経損傷・屈筋腱損傷の治療	竹本龍太			
15~16	終末期の治療	田中将人(青梅慶友病院)			
17~20	心疾患・呼吸器疾患の治療	森田将健 (NTT東日本関東病院)			
	腎臓疾患(CKD)・癌・内部疾患の治療				
評価方法	授業内提出課題・確認テスト+定期試験(教科書、資料の持ち込みは不可)合計にて60%以上で合格 再試は全ての範囲にて実施する				
自由記述(メッセージ)	リハビリテーション対象となる疾患は非常に多く存在し、出生からご逝去まで関わりは継続している。対象者にとって有益な評価治療を行うためには、基礎となる人体構造と、その疾患の発生機序を十分に理解して実践することが重要である。適宜基礎知識に戻りながら疾患、障害について深く理解し、対象者の社会参加・QOLへ繋がる関わりを実践していかれることを期待する。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	精神障害作業治療学 I		必修	2年前期	8コマ・16時間
担当教員	佐々木康友	背景	作業療法士歴15年以上		
授業形態	講義	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書：精神障害と作業療法 山根寛 三輪書店				
<b>授業概要</b> 講義を通じて、精神障害に対する概念の変遷と作業療法の理念を学び、精神科作業療法の基本的役割を理解する。精神科作業療法の治療構造について学び、作業療法実践の場がもつ特徴について理解を深める。					
<b>狙いと到達目標</b> 対象となる疾患・障害についての社会的・生物学的背景について理解を深め、精神科における作業療法の役割・実施形態・治療者のあり方などを知り、説明できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 作業療法中の対象者のエピソードや、現場での気付き等を示すことを通して、作業の持っている力や効果、構造作りの大切さなどの理解が深まるように生かしていきたい。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	ひとと病い				
2	精神の病と作業療法の歴史				
3	作業をもちいる療法の特性				
4	作業療法の治療・支援構造と治療機序①				
5	作業療法の治療・支援構造と治療機序②				
6	作業療法の手順①				
7	作業療法の手順②				
8	作業療法の実践				
評価方法	提出物30%、筆記試験70%で総合的に評価する				
<b>自由記述</b> (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	精神障害作業治療学Ⅱ		必修	2年後期	20コマ・40時間
担当教員	佐々木康友	背景	作業療法士歴15年以上		
授業形態	講義・グループワーク	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書：精神障害と作業療法 山根寛 三輪書店 精神疾患の理解と精神科作業療法 朝田隆 他 中央法規出版				
<p><b>授業概要</b> 講義を通じて、精神障害領域の代表的な疾患について、概要・実践される作業療法の特徴・禁忌事項等について説明する。また、MTDLPを用いた評価・治療課程についても、適宜紹介していく。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b> これまでに学んできた精神機能や精神医学の知見を総合することにより、精神科の代表的な疾患に必要な知識と技術を説明することができる。 精神の病を持ちながら生活する人に対する理解を深め、自分なりに説明することができる。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか 実際の対象者の様子や、悩んでいること等の心の動きを紹介することで、疾患を持つ人という観点のみならず一人の人としての理解を深められるよう生かしていく。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1～5	統合失調症の作業療法				
6～8	気分障害の作業療法				
9～10	神経症圏の作業療法				
11～12	パーソナリティー障害の作業療法				
13～14	物質関連障害の作業療法				
15～16	摂食障害の作業療法				
17～18	発達障害の作業療法				
19	てんかんの作業療法				
20	まとめと補足(MTDLP)				
評価方法	提出物30%、筆記試験70%で総合的に評価する				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	発達障害作業治療学 I		必修	2年前期	10コマ・20時間
担当教員	温井 恵・時増 麻紀子	背景	作業療法士歴23年		
授業形態	講義・実技	実務家教員	臨床10年		
受講ルール	共通ルール+実習着ルール(動きやすい服装で可)				
受講条件	事前課題に取り組んだうえで参加すること				
教科書等	発達障害の作業療法 基礎編・実践編 第3版 三輪書店 イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社				
<p><b>授業概要</b></p> <p>社会の移り変わりとともに少子高齢化が進んでいるが、一方で医療の発展とともに障害児が増加している昨今において障害を持つ子どもの社会参加支援は作業療法士として重大な責務である。発達評価にて得た定型発達の知識から、臨床ではどのように治療実践がされているかを、グループワークやディスカッション、演習を通して学び、支援への実践につなげます。また小児リハビリテーションに携わっている講師からの実践に基づいた話を聞く機会から、臨床へのイメージ構築へ繋がります。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害作業療法においてどのような治療、援助方法があるか述べる事が出来る。</li> <li>・実技を通じて基本的な治療、援助方法について立案、実践することが出来る。</li> <li>・臨床での実践経験を知る事でリハビリテーションがどのように必要とされ実践されているかを知ることが出来る。</li> </ul>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>発達領域での実務経験(特別支援学校・教育機関巡回)を、講義内容と直接的に結びつけることで、学生の理論理解と実践の繋がりイメージ構築に生かす。</p>					
<p>授業計画・内容(授業の順番は変更になることがあります)</p>					
1	Therapy: 発達治療とは・・・討論(グループワーク) 定義確認(自己学習)				
2	家族支援とは・・・討論(グループワーク) 定義確認(自己学習)				
3	姿勢コントロールへのアプローチ・・・演習(レクリエーション室)				
4	遊びの治療的応用・・・討論(Think pair share) 定義確認(自己学習)				
5	感覚統合療法 実践・・・グループワーク・演習にて実践				
6					
7	知的障害に対するアプローチ・・・eスポーツ・アプリケーションの実演・実践				
8	手の操作性向上とADL動作へのアプローチ・・・MTDLPシートを活用しての演習				
9	小児リハビリテーションの実践			外部講師: 時増麻紀子	
10	NICU・訪問リハビリテーション				
評価方法	提出課題・確認テスト+筆記試験(教科書、資料などの持ち込みは不可)にて60%以上で合格 再試は全ての範囲を含めて実施				
自由記述(メッセージ)	発達分野の作業療法は、今後日本の抱える問題に対して大変重要な分野です。医療業界のみならず、福祉、教育、保育といった多くの分野から発達障害支援のニーズがあります。本講義では実践的な治療方法、その考え方を演習形式で学びます。治療1つ1つの意味合いを考え、臨むことを期待します。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	発達障害作業治療学Ⅱ	必修	2年後期	20コマ・40時間	
担当教員	温井恵・飛田孝行	背景	作業療法士歴23年		
授業形態	講義	実務家教員 臨床10年			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール(動きやすい服装で可)				
受講条件	事前課題に取り組んだうえで参加すること				
教科書等	発達障害の作業療法 基礎編・実践編 第3版 三輪書店 イラストでわかる発達障害の作業療法 医歯薬出版株式会社				
<p><b>授業概要</b></p> <p>社会の移り変わりとともに少子化が進んでおり、一方で医療の発展とともに障害児が増加している昨今において障害を持つ子どもの社会参加支援は作業療法士としての重要な責務である。人が生まれ発達・成長していく過程を理解するとともに、グループワークやディスカッション、演習を通して障害の発生、その支援への実践につなげます。評価学にて学んだ基礎知識を基盤に、治療実践においてどのような手段、作業療法思考過程があるかを疾患別に学びます。また小児リハビリテーションに携わっている講師からの話も含め、より臨床実践へのイメージ構築へ繋がります。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害領域の各種疾患に起因する機能障害を理解し、その障害の改善や生活機能障害の軽減方法を説明できる。</li> <li>・評価学、治療学Ⅰからの学びを基礎にし疾患、障害毎の作業療法治療について説明できる。</li> </ul>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>発達領域での実務経験(特別支援学校・教育機関巡回)を、講義内容と直接的に結びつけることで、学生の理論理解と実践の繋がりイメージ構築に生かす。</p>					
<p><b>授業計画・内容(授業の順番は変更にあることがあります)</b></p>					
1	障害の発生と障害児を取り巻く社会・・討論(グループワーク)				
2~3	脳性麻痺 痙直型両麻痺・片麻痺・四肢麻痺 アテトーゼ型四肢麻痺 ケーススタディ(MTDLP演習) 確認テスト★				
4~5					
6	重症心身障害児・・定義確認(自己学習)				
7~8	筋ジストロフィー・・討論(Think pair share) 定義確認(自己学習)確認テスト★				
9	染色体異常・・基礎知識確認・定義確認(自己学習)確認テスト★				
10~14	小児整形(二分脊椎・分娩麻痺・骨形成不全)・・基礎知識確認・定義確認(自己学習) ★確認テスト				
15~16	発達作業療法概論		東京小児療育病院 飛田孝行		
17~18	自閉スペクトラム症(ASD)				
19~20	注意欠如多動症(ADHD)				
評価方法	課題提出・各單元ごとの確認テスト+定期試験(教科書、資料の持ち込みは不可)60%以上で合格 再試は全ての範囲を含めて実施				
自由記述 (メッセージ)	発達分野の作業療法は、今後日本の抱える問題に対して大変重要な分野です。医療業界のみならず、福祉、教育、保育といった多くの分野から発達障害支援のニーズがあります。本講義では疾患別の特徴、障害に即した実践的な治療方法、その考え方を演習形式で学びます。基礎知識からの繋がりを大切に臨んで下さい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	老年期障害作業治療学		必修	2年前期	10コマ・20時間
担当教員	中村 由美	背景	作業療法士歴5年以上		
授業形態	講義・グループワーク	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 高齢期作業療法学 第4版 医学書院				
授業概要					
高齢者の特性や高齢期に多い疾患・老年症候群を理解し、高齢者作業療法の評価・目標設定・治療の流れを学ぶ。介護予防や認知症対応を含む実践的アプローチやケーススタディを通じて、臨床での応用力を養う。					
狙いと到達目標					
高齢者に対する作業療法を実践できるようになるために高齢者の特徴や取り巻く環境を踏まえた作業療法を理解する。					
①高齢社会と高齢期の課題について説明できる。					
②高齢者の特徴と高齢期に多い疾患を説明できる。					
③高齢者に対する作業療法の過程を説明できる。					
④認知症の定義と分類、代表疾患とその症状を理解できる。					
⑤認知症高齢者に対する作業療法の在り方を理解できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
高齢者の特徴や作業療法について説明する際、実務で経験したことを事例として紹介することで理解を深める手助けとする。					
授業計画・内容					
1	・授業全体の目標確認と評価方法を確認する。 ・高齢社会・高齢期の課題を理解できる。				
2	高齢者の特徴(老化・老年症候群)				
3	高齢期に多い疾患				
4	認知症の概要(定義・分類・症状・代表疾患)				
5	高齢者作業療法の実践の流れ (高齢者の人権と尊厳・生活の見方・評価・目標設定・治療)				
6	病期・時期に応じた作業療法				
7	実施場所に応じた作業療法				
8	認知症高齢者の作業療法				
9	ケーススタディー				
10	老年期まとめ				
評価方法	筆記試験:80% 提出物(全10回分):20% ・提出物は各授業後、原則として翌日9:30までに提出すること。 ・授業に欠席した場合は提出できません。 ※やむを得ない理由で欠席した場合は、教員に相談すること。				
自由記述 (メッセージ)	・教科書第3章の事例は読んでおくこと。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	高次神経障害作業治療学		必修	2年前期	10コマ・20時間
担当教員	温井恵	背景	作業療法士歴23年目		
授業形態	講義・評価実技	実務家教員	臨床10年		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	脳解剖学の理解と支配領野の役割を理解しておくこと				
教科書等	標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第3版 参考:メディックメディア からだがみえる 第1版				
<p><b>授業概要</b></p> <p>高次脳機能障害は、脳卒中、頭部外傷患者などにおいて後遺症として発生しやすく、かつそれらが日常生活や社会参加を妨げる要因になり得る。少子高齢化が進行する昨今において、高次脳機能障害者も社会復帰や参加へ繋がるような支援、就労支援は作業療法士にとって重要な責務である。討論(Think pair share)を毎回取り入れ、障害特性や関わり方について理解を深めるとともに、臨床観察などの実践的な評価演習を通して現場において観察評価が行えるスキルを身に付ける。</p>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳の機能解剖、灌流域、機能局在について説明することができる</li> <li>・高次神経障害の概念、症状を列挙することができる</li> <li>・高次神経障害の日常生活場面での困難さについて推察し適切な評価を選択、実施することができる</li> <li>・高次神経障害の作業療法介入原則を説明することができる</li> </ul>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>身体領域での実務経験(急性期・回復期リハビリテーション病院勤務)を、講義内容と直接的に結びつけることで、学生の理論理解と実践の繋がりイメージ構築に生かす。</p>					
<p><b>授業計画・内容</b></p>					
1	「高次」「高次脳」とは・・基礎知識(自己学習)				
2	画像診断評価・脳の機能局在・灌流域・・基礎知識(自己学習)				
3	注意障害の評価と治療・・評価・治療演習				
4	記憶障害の評価と治療・・評価・治療演習				
5	失語症の評価と治療・・評価・治療演習 ★臨床観察				
6	失行症の評価と治療・・評価・治療演習 ★臨床観察				
7	失認の評価と治療・・評価・治療演習				
8	半側空間無視の評価と治療・・評価・治療演習				
9	遂行機能障害の評価と治療・・評価・治療演習				
10	社会適応障害の評価と治療・・評価・治療演習				
評価方法	提出課題・確認テスト+筆記試験(教科書、資料の持ち込みは不可)60%にて合格 再試は全ての範囲を含めて実施				
自由記述 (メッセージ)	解剖学、神経内科学で学んできた脳の機能、機能局在、障害の知識を基に作業療法評価、治療の実践となります。また、日常動作観察の中から障害像を掴めることが臨床では必要となりますので、観察手技、記録方法の演習も合わせて学びとして行って下さい。多くの方に支援が出来る臨床家となれるよう臨んで下さい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	身体障害作業治療学実習		必修	2年通年	30コマ・60時間
担当教員	中村由美他	背景	作業療法士歴5年以上		
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	実習着着用				
教科書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 医学書院				
<b>授業概要</b> 身体機能に関する評価・治療の基礎から応用までを学ぶ。関節可動域・筋力・感覚・バランス・呼吸などの訓練技術を習得し、事例検討や当事者実習を通して評価・治療プログラムの立案と実践能力を養う。					
<b>狙いと到達目標</b> 身体障害作業療法を実践できるようになるために、身体機能障害の治療原理を理解し治療が行えるようになる。 ①各治療主義の基礎知識(治療の目的・障害の原因・治療主義・留意点)を説明できる。 ②各治療主義の主たる手技を実施できる。 <small>③事例を通して障害者と身体機能との適切な評価・治療を考慮し実施できる。</small>					
授業において実務経験をどのように生かすか 急性期病院での身体障害領域の作業療法実務経験を基に、学生が実践的スキルを身につけられるよう指導を行う。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	オリエンテーション・身体運動の基礎				
2・3	関節可動域訓練				
4	筋力・筋持久力訓練				
5	筋緊張異常の治療・協調性訓練				
6・7	感覚障害の治療・上肢機能訓練				
8	バランス訓練(立位・座位)				
9~12	事例検討				
13・14	呼吸リハビリテーション(山下先生)				
<b>実技試験</b>					
15	当事者実習オリエンテーション(目的と方法・関わり方、触り方の基本・リスク管理等)				
16	情報収集のための準備				
17・18	【当事者】 情報収集				
19・20	評価計画と評価練習				
21・22	【当事者】 評価1				
23・24	【当事者】 評価2				
25・26	評価のまとめ・治療プログラム立案				
27・28	治療準備・練習				
29・30	【当事者】 治療				
評価方法	実技試験 50%・当事者実習 50%				
自由記述	当事者は地域で「生活する人」であるということを忘れず関わること。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	精神障害作業治療学実習		必修	2年後期	30コマ・60時間
担当教員	加藤和貴	背景	作業療法士 5年以上		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書:精神疾患の理解と精神科作業療法 朝田隆 他 中央法規出版 参考書:精神障害と作業療法 山根寛 三輪書店				
<p>授業概要</p> <p>実際に行われている評価法やプログラムを演習する中で、その運営や適切な態度・行動・関係・役割を学ぶ。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <p>治療を進める上で求められる知見を、精神障害作業療法評価学・治療学で学んだ知識・技術に基づいて具体的かつ体験的に理解し説明できる。 併せて学生自身の自己理解を深め、意識的に自己の治療的活用ができる。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>職務を遂行する上で最も有益だったのは当事者、先人たちから学んだ経験知である。 そして対象者について考える上で作業的存在としてとらえる大切さを実務経験から学んだ。 それらを踏まえ作業療法の視点で捉える要素や要点を提示していきたい。</p>					
授業計画・内容					
1	授業概要、ロジャーズ 援助者の条件を学ぶ				
2	アロマセラピープログラム ペアワーク				
3 4	COPMを理解 実施する ペアワーク				
5 6	観察と記録、書き方のコツ				
7 8	インテーク面接の目的・流れを理解する ヘルピングスキルを理解する				
9 10	構成的作業面接(箱作り方)概要を理解し実施する				
11 12	治療的コミュニケーションを理解しレク実施に向け準備する グループワーク				
13 14	SSTの理論的背景・技法を理解し実施する				
15 16	各班毎にレクリエーションを実施する グループワーク				

17 18	レク振り返り グループワーク	就労の概要を知る 働くことについて考える
19 20	ケーススタディー	
21 22	当事者講演 多摩棕櫚亭協会	振り返り
23 24	ワークショップ 絵本作り	を体験する グループワーク
25 26	クライシスについて考える	癒しの技法(リラクゼーション、タクティールケア)
27 28	精神科作業療法の知識を深める	
29 30	講義振り返り・ 実習に向けた質疑	
評価方法	レポート(40%)・筆記テスト(60%)を併せて評価する	
自由記述 (メッセージ)	精神科で行われている作業療法の一部を体験し、その治療構造への理解を深めることで、明確な意図を持って対象者と関わっていけることを目指します。行う作業活動の何が楽しく何が大変なのか。意味は何なのか。様々な演習を通して実感してほしいと思います。	

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	日常生活活動援助学		必修	2年前期	15コマ・30時間
担当教員	竹本龍太	背景	作業療法士歴10年以上		
授業形態	講義	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	改訂第2版 作業療法学ゴールドマスターテキスト 日常生活活動学(ADL)				
<p><b>授業概要</b></p> <p>作業療法士として日常生活活動(以下ADL)に関する指導・援助ができるように、日常生活活動の動作を評価・理解し、支援方法を学ぶ。事前課題にて予習をし反転授業を展開する。基本的には、Barthel Index(以下BI)、Functional Independence Measure(以下FIM)の採点基準と照らし合わせながら各ADLを学んでいく。また、国家試験問題に応じた各種疾患ごとの支援方法を学ぶ。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b></p> <p>ADLの概念と範囲を学び、それらに対する基本的な評価と支援が理解できる。</p> <p>①ADLの概念と範囲について説明できる。</p> <p>②ADLの評価について理解しBI、FIMを使用して評価ができる。</p> <p>③生活行為、各種疾患に応じた支援について自助具の用途を含め理解し説明できる。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>病院(身体障害領域)での回復期、急性期、生活期の作業療法経験から教科書的知識と臨床現場での実践を加え伝えていく。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	ADL総論				
2	ADLの評価(BI・FIM 他)				
3	起居(寝返り・起き上がり)・立ち上がり・着座				
4	移乗				
5	移動動作(車椅子・歩行動作・歩行補助具)・階段昇降・外出				
6	食事				
7	排泄				
8	入浴・更衣・整容				
9	コミュニケーション				
10	家事動作(調理・掃除・洗濯)				
11	障害別のADL-脊髄損傷・ALS-				
12	障害別のADL-パーキンソン病・脊髄小脳変性症-				
13	障害別のADL-関節リウマチ・大腿骨頭部骨折-				
14	障害別のADL-呼吸器疾患・認知症高齢者-				
15	MTDLPにおける生活課題の導き出し方				
評価方法	筆記試験80% 事前課題20%				
自由記述 (メッセージ)	classroom上にアップする事前課題を授業までに行ってください。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	日常生活活動援助学実習		必修	2年通年	30コマ・60時間
担当教員	竹本龍太 他	背景	作業療法士歴10年以上		
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	実習着着用 特別教室使用後は掃除をする				
受講条件	特になし				
教科書等	改訂第2版 作業療法学ゴールドマスターテキスト 日常生活活動学(ADL)				
授業概要					
作業療法士として日常生活活動(以下ADL)に関する指導・援助ができるように各種疾患についてのADL上の問題と指導・援助方法を習得する。					
狙いと到達目標					
①ADLの指導・援助の基本的な考え方を理解し説明できる。					
②各疾患のADL上の問題を想起、説明できる。					
③各種疾患の特徴を踏まえ主たるADL障害に対する指導・援助方法を実習を通して修得する。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
資格知識(公認中級パラスポーツ指導員・3Dプリンター自助具クリエイター認定・デジタルアクセシビリティアドバイザー)を活かし実技指導を行う。					
授業計画・内容					
1	起居(寝返り・起き上がり)・立ち上がり・着座				
2	移乗動作				
3	移動動作(車椅子・歩行動作・歩行補助具)・階段昇降・外出				
4	食事				
5	排泄				
6	入浴・更衣・整容				
7	コミュニケーション				
8	片麻痺調理体験・準備				
9	片麻痺調理体験 ※要エプロン、頭巾(バンダナ・三角巾など)				
10					
11					
12	片麻痺調理体験・振り返り				
13	自助具・3Dプリンタの活用				
14	3Dプリンタ製の自助具デザイン ※要パソコン				
15					
16	3Dプリンタ製の自助具完成・発表				
17	アクセシビリティ・eスポーツ				
18					
19	症例検討(片麻痺)				
20					
21					
22	喀痰・吸引技術① 倉持				
23					
24	喀痰・吸引技術② 倉持				
25					
26	パラスポーツ概論・施設見学(東京都多摩障害者スポーツセンター)				
27	パラスポーツ体験(東京都多摩障害者スポーツセンター)※運動着、体育館履き				
28					
29	自動車運転支援(初台リハビリテーション病院)				
30	講義・ドライビングシミュレーター体験				
評価方法	実技試験70% レポート(喀痰・吸引技術10% パラスポーツ10% 自動車運転支援10%)				
自由記述(メッセージ)	前期はベーシックなADLについて、後期は外部施設も含め幅広い作業活動について学びます。外部の方々と接することになるので、社会的な行動にも留意して下さい。 -55-				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	義肢装具学		必修	2年後期	15コマ・30時間
担当教員	笹尾久美子・阿部幸一郎 佐々木亮平	背景	笹尾、阿部 作業療法士 佐々木 理学療法士		
授業形態	講義・実技	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール＋実習着ルール				
受講条件	特記なし				
教科書等	義肢装具学(作業療法学ゴールド・マスター・テキスト)メジカルビュー社				
<b>授業概要</b> 1.対象者の障害に応じた下肢装具・義足の活用方法を知るために、構造や適合を理解する 2.臨床で下肢装具・義足を活用するために、下肢装具や義足体験をする					
<b>狙いと到達目標</b> 1.義肢装具療法における療法士の役割を述べるができる 2.義肢装具療法の目的を述べるができる 3.義肢装具療法の適合判定を記載できる 4.ドレッシング方法を体験し、ドレッシング方法を説明できる 5.下肢装具の装着体験を通じて、下肢装具のメリットとデメリットを述べる事ができる 6.静的スプリントを作製する 7.動的スプリントを作製する * ペアを組んでそれぞれ作製し手順を学びます。併せて作製される側(患者)も体験し、臨床現場での作製過程における患者への配慮も学ぶ。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 当科目は佐々木亮平(理学療法士)が担当しその実務経験を授業内容において、より臨床的な内容になるように生かす					
<b>授業計画・内容</b>					
1	切断の定義や発生原因、特殊な切断等について、講義や画像視聴を通して理解する。(笹尾)				
2	義手の定義や分類、構造と特徴について、デモ用義手を観察しながら理解する。(笹尾)				
3	グループワークによる演習を通して、基本的な義手の構造と仕組みについて理解を深める。(笹尾)				
4	グループワークによる演習を通して、義手のチェックアウトについて理解を深める。(笹尾)				
5	主要な上肢装具の使用目的や適応について、デモ用装具を観察しながら理解する。(笹尾)				
6	グループワークによる演習を通して、主要な上肢装具の適応等について理解を深める。(笹尾)				
7	義足、下肢装具総論、短下肢装具について(佐々木)				
8	短下肢装具体験、長下肢装具について(佐々木)				
9	長下肢装具、体幹装具体験(佐々木)				
10	義足について、義足におけるセラピストの評価と治療(佐々木)				
11	義足体験、ドレッシング方法の体験(佐々木)				
12	静的スプリントを作製する。(ペアを組んで互いに作製する。作製方法を学ぶことと、作製される側(患者)を体験することにより患者への配慮も学ぶ。(阿部)				
13					
14	動的スプリントを作製する。(ペアを組んで互いに作製する。作製方法を学ぶことと、作製される側(患者)を体験することにより患者への配慮も学ぶ。(阿部)				
15					
評価方法	期末筆記試験(笹尾40点 佐々木30点 阿部30点満点) 合計点数が60点以上、かつそれぞれの担当において6割以上であるものを合格とする。				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業療法研究法 I		必修	2年後期	8コマ・16時間
担当教員	芳賀孝志	背景	企業研修及び専門学校の講師の経歴		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	作業療法士のための研究法入門 著者名:鎌倉 矩子 他 出版社:三輪書店				
<b>授業概要</b> ・研究の一連の流れを理解する。 ・文献レビューの方法を学び、実際にテーマに沿った文献検索をしたり、文献の批判的な読み方などを学ぶ。 ・自ら行いたい研究テーマ(仮)を決定し、研究計画作成の練習をする。					
<b>狙いと到達目標</b> 作業療法の研究のやり方について、一連の流れを理解し、研究に必要な基礎知識・技術・態度を身につける。					
授業において実務経験をどのように生かすか 複数の企業での職務経歴や、様々な業種の顧客企業へのサービス提供における関連経験を基に、事例を活用しながら、生徒の理解を促進する。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	研究とは	研究の意義、研究疑問と研究の様式、研究の倫理			
2	研究計画書の作り方1	一般的な研究計画書の作り方、研究の倫理等			
3	文献レビュー1	文献レビューの目的、探し方、読み方、書き方			
4	文献レビュー2	文献カードの作成の練習、文献レビューの実例の確認			
5	研究の種類と論文構成1	文献研究、調査研究			
6	研究の種類と論文構成2	実験的研究、シングルケースデザイン、事例研究			
7	文献レビュー3	自分のテーマについての文献カード、文献レビューの発表等			
8	研究計画書の作り方2	研究計画書の進捗の発表等			
評価方法	出席・文献のまとめ・研究計画書				
自由記述 (メッセージ)	研究法は、難解な勉強と恐れている人が多いと思います。しかし、研究者の誰もが、はじめは同じ不安を抱いていたことでしょう。そして、どんな研究者も、基礎から研究法の学習を始めたはずですので、みなさんも恐れる必要はありません。みなさんが、追いたいテーマを研究するために、楽しく一緒に学んでいきましょう。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	臨床作業療法演習Ⅱ		必修	2年前後期	20コマ・40時間
担当教員	山下 久美子	背景	作業療法士歴15年以上		
授業形態	演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	授業に適した教科書				
<b>授業概要</b> 作業療法士として求められる医療的・専門的知識、技能面の会得を目指して練習に取り組む。臨床現場で具体的な手順や動きを理解し行動出来るように、ペア、グループワークを基本とし、メンバーよりフィードバックを受けるなど学生相互の学びになるように展開する。					
<b>狙いと到達目標</b> 作業療法士に求められる医療的知識、専門的知識、技能面の会得を目指して練習に取り組むことができる。 実習現場で具体的な手順や動きを理解し行動出来る。 必要な情報を収集・統合などが出来る。適宜教員に対し報告・相談することが出来る。 授業において実務経験をどのように生かすか 病院(身体障害領域での急性期、回復期、外来リハ、通所リハ等)での臨床経験を技能面などの指導に活かす。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	オリエンテーション・実技練習				
2	実技練習				
3					
4					
5	臨床見学実習 関連 (実習先について調べる・持参書類作成・発表資料作成)				
6	当事者実習 インテーク 事前準備				
7	当事者実習 評価1回目 事前準備				
8	当事者実習 評価2回目 事前準備				
9	当事者実習 治療 事前準備				
10	評価実習関連(実習先について調べる・必要書面作成など)				
11	評価実習指導者会議オリエンテーション				
12	OSCEオリエンテーション				
13					
14	OSCE練習				
15					
16	評価実習オリエンテーション				
17	評価実習Ⅰレジュメ添削				
18					
19	評価実習Ⅱレジュメ添削				
20					
評価方法	授業内提出物にて評定します。				
自由記述 (メッセージ)	臨床実習は、今まで授業で習った事の全て(知識、技術等)が求められます。臨床実習は、多くの学生が不安を感じるようです。その不安を軽減させるためにも、知識、技術等をより身に着けて実習に臨んでもらいたいと考えておりますので、積極的に授業に臨んでください。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	地域作業療法学 I		必修	2年後期	10コマ・20時間
担当教員	中村由美	背景	作業療法士歴5年以上		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版 医歯薬出版				
<p><b>授業概要</b></p> <p>生活行為向上マネジメント(MTDLP)の演習を通じて、障害を持つ人々が住み慣れた地域で生活するため、特に地域包括ケアシステムに資する「活動と参加」への具体的な支援を学習する。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b></p> <p>一般目標:地域作業療法を実施するために、生活行為向上マネジメントツールを用いて、生活モデル視点での評価・プログラム立案・実践過程を理解できる。</p> <p>行動目標</p> <p>①地域作業療法の概念を理解し説明できる。</p> <p>②ICFの概念により地域生活障害者の生活構造を図式的に説明できる。</p> <p>③地域生活者事例を通してMTDLPのプロセスを理解しシートを使用できるようになる。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>病院・老健での在宅復帰に向けた支援、通所リハ、訪問リハの経験から、学生が地域生活者の生活モデルをイメージできるよう具体例を示す。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	地域作業療法と生活障害・ICF				
2	地域生活者の生活構造の理解:情報収集・聞き取りシート・興味関心チェックリスト				
3					
4	地域生活者の生活課題の評価・課題抽出と目標設定: アセスメント演習シート・課題分析シート				
5					
6	地域生活者の生活支援プログラムの立案:プラン演習シート				
7					
8	地域作業療法における臨床思考過程の振り返り				
9	発表資料作成と 発表(グループ)				
10					
評価方法	<p>実習システムのMTDLPシート(80点)</p> <p>・ICFの概念図(ケースノート)・生活行為聞き取りシート・アセスメント演習シート</p> <p>・課題分析シート・プラン演習シート・実習レジュメ</p> <p>発表(20点)</p> <p>* ルーブリックにより採点します。</p> <p>* 提出日は掲示板にて掲示します。</p>				
自由記述 (メッセージ)	必ずパソコン、タブレットを持参すること。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名・属性	環境整備論	必修	2年後期	15コマ・30時間	
担当教員	山下久美子	背景	作業療法士歴15年以上		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	福祉用具学～疾患・障害別の福祉用具と住環境整備～ 改訂第2版 (作業療法学ゴールド・マスター・テキスト)メジカルビュー社				
<b>授業概要</b> 作業療法において環境因子を考慮することは必須であり、対象の方の利点を最大限に生かすために欠かせないアプローチ方法の一つでもある。用具の選定において、疾患、症状の知識に加えて用具の特性を把握しておくことも同じように重要である。また住宅を整えていく必要もあり、作業療法士だけではアプローチできない場合もあるため、他職種との情報や目標の共有が必要である。国際福祉機器展(H.C.R)に参加し、実際に福用具に触れ、代表的な症例に適した福祉用具の選定をおこない、グループで発表をする。					
<b>狙いと到達目標</b> 一般目標 環境整備についての基本知識と適合技術の習得ができる 行動目標 ①環境を整備する意義を説明できる ②症状の特性と環境の特性を整理できる ③建築関係の基本的知識を想起できる ④住宅改修の事例にて対象者と住宅改修のマッチングについて判定できる					
授業において実務経験をどのように生かすか 難病疾患の利用者が多い訪問看護ステーションで勤務した際、福祉用具の選定や住宅改修に関わった経験を自身が実際に関わってうまくいった例、失敗した例などを提示し活かす。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	生活上における福祉用具の役割				
2	住環境について				
3	寝具(ベッド)関連、危険予知トレーニング				
4	移乗・移動(車椅子)関連				
5	移動関連				
6	排泄関連				
7	入浴関連				
8	コミュニケーション・環境制御装置関連				
9	疾患の特徴と環境整備				
10	(パーキンソン病、呼吸器疾患、整形外科疾患)				
11	国際福祉機器展(H.C.R) オリエンテーション				
12	国際福祉機器展(H.C.R) 参加				
13					
14	国際福祉機器展(H.C.R) 振り返り(レポート作成)				
15	国際福祉機器展(H.C.R) グループ発表				
評価方法	定期筆記試験80%とレポート20%で評価する。両方を合算し、60%を合格とする。				
<b>自由記述</b> (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床実習 I-1及び I-2(評価実習 I/II)		必修	2年後期	(135時間)×2期
担当教員	山下久美子 他	背景	作業療法士歴15年以上		
授業形態	臨床実習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール				
受講条件	感染対策の徹底+基礎知識が身につけていること+個人情報の保護(SNS等での拡散禁止)				
教科書等	全教科				
<b>授業概要</b> 医療機関、関連施設にて3週間の実習を2か所でおこなう。学内では、予習として知識・技能の確認のため筆記試験、Objective Structured Clinical Examination(以下OSCE)を行う。臨地実習では、基本的に見学・模倣・実施による診療参加型実習を行い、得られた情報を整理、統合、対象者の全体像を把握する。復習としてデイリーノートやケースレポートの作成と、実習後学内セミナーにて作業療法実践の発表を行う。					
<b>狙いと到達目標</b> 臨床実習指導者の指導・監督の基で、典型的な障害特性を呈する対象者に以下の対応を身につけることができる。 ①評価実習を通じて作業療法士の役割と基本的態度、多職種の役割を学ぶことができる。 ②作業療法士を目指す学生としての基本的態度を身につけることができる。 ③対象者の改善課題整理と目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につけることができる。					
授業において実務経験をどのように生かすか MTDLPの使い、臨床における実習生指導の経験を活かす。					
<b>授業計画・内容</b> <b>【実習前学内】:実習オリエンテーション以外は各2回実施</b>					
	実習オリエンテーション				
	知識試験				
	OSCE				
	施設概要/作業療法士の1日のスケジュールを把握する				
	該当施設の作業療法士の基本的態度、評価・治療場面の見学、模倣、実施				
	評価に関する情報収集				
	対象者の評価・治療目標設定の理解				
	対象者の治療計画の立案の理解				
	デイリーノート・ケースレポート作成				
<b>【実習後学内】:2回実施</b>					
	セミナー発表				
評価方法	実習地評価(指導者評価) 担当教員評価(実習出席状況など、知識試験、OSCE、セミナー発表)で総合判定				
自由記述 (メッセージ)	臨床実習前から感染症対策を徹底してください。また、事前に十分再学習をし、実習の一連の流れを把握した上で臨床実習に臨んでもらいたいと思います。 また、実習期間の自己学習時間は、1日1～2時間を目安におこなってください。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床見学実習		必修	2年前期	45時間
担当教員	山下久美子	背景	作業療法士 15年以上		
授業形態	実習	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール				
受講条件	感染対策の徹底+基礎知識が身についていること+個人情報の保護(SNS等での拡散禁止)				
教科書等	全教科				
授業概要	<p>作業療法士は、病院、施設などにとどまらず地域社会へと活躍の場を広げている。5日間の臨床見学を通じて地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの役割を学び、その中で作業療法士の役割と基本的態度と多職種連携を学ぶ。</p>				
狙いと到達目標	<p>狙いと到達目標</p> <p>①地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの役割を学び、地域作業療法の理解と見聞を深めることができる。</p> <p>②地域で活躍している職種についても学び、多職種の役割について理解を深めることができる。</p> <p>③社会人としての基本的態度を身に着けることができる。</p>				
授業において実務経験をどのように生かすか	<p>地域の「生活の場」で作業療法士がおこなっている支援の説明について、訪問看護ステーションに勤務した経験を活かす。</p>				
授業計画・内容	<p><b>【実習前学内】</b></p> <p>臨床見学実習オリエンテーション</p> <p><b>【臨床実習(5日間)】</b></p> <p>地域リハビリテーションについてオリエンテーションを受け、地域包括ケアシステムにおける施設等の役割について理解する。</p> <p>地域リハビリテーションにおける作業療法(士)の役割、作業活動の使い方などを見学し、理解する。</p> <p>作業療法士の介入場面、対象者の観察をおこない、記録する。</p> <p>許される範囲で対象者に触れる機会を持ち(対象者の状況に応じた適切な交流や面接等)、記録する。</p> <p>臨床見学実習を通じて、地域包括ケアシステムでの多職種の役割を理解する。</p> <p>対象者、指導者に実習の御礼を伝え、チェックリストの記録を依頼する。</p> <p><b>【実習後学内】</b></p> <p>セミナー発表 臨床見学実習を通じて学びや気づきをまとめ、専門用語を用いて発表する。また、実習評定を振り返り、指導を受ける。</p> <p>評価方法 実習施設からの評定と学内評定(実習オリエンテーション、セミナー発表など)で総合的に判定する。</p> <p>自由記述 (メッセージ) 作業療法士は生活支援の専門家であるという視点を持ち、学んでください。実習期間の自己学習時間は、1日1～2時間を目安におこなってください。</p>				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	統計学	必修	3年前期	10コマ・20時間	
担当教員	芳賀孝志	背景	企業研修及び専門学校講師の経歴		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	(本冊子冒頭) 共通ルール+実習着ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	はじめての統計学 出版社: 日本経済新聞社				
<p>授業概要</p> <p>統計学における基礎的な考え方、基本的な専門用語や概念の定義を学習する。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <p>医療従事者に求められている、統計学の基礎知識と分析概念に関する基礎能力を習得し、関連文献等に含まれる統計情報の理解度を向上する。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>複数の企業での職務経歴や、様々な業種の顧客企業へのサービス提供における関連経験を基に、事例を活用しながら、生徒の理解を促進する。</p>					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション・統計学とは?	統計学の考え方の基礎・分析概念の説明			
2	統計学の概念の基礎	標本抽出・データの作り方の説明			
3	標本分布の特性値(1)	いろいろな形の分布・分布の特性値の説明			
4	標本分布の特性値(2)	分布の特性値の説明と応用の説明			
5	確率と確率分布(1)	確率・確率変数と確率分布の説明			
6	確率と確率分布(2)	二項分析・ポアソン分析の説明			
7	一様分布と正規分布	一様分布と正規分布の説明			
8	標本平均の分布と母平均の推定(1)	統計的優位性・標本平均の分析の説明			
9	標本平均の分布と母平均の推定(2)	母平均の推定の説明			
10	仮説検定と相関分析	仮説検定と相関分析の説明			
評価方法	出席・試験・課題				
自由記述 (メッセージ)	統計学は、難解な勉強と恐れている人が多いと思います。しかし、わかりやすい入門から始めれば恐れる必要はありません。私たちの生活に関連した統計情報を題材として、身につけていきましょう。短期間での講義ですが、集中しながら、楽しくいっしょに学んでいきましょう。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	死生学	必修	3年通年	10コマ・20時間	
担当教員	渡辺俊彦 他	背景	牧師39年 教員歴40年 児童養護施設理事 臨床牧会研究所代表		
授業形態	講義	実務家教員である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	なし				
授業概要					
<p>学科の最終学年にあたり、それまでの作業療法士への学びで身に付けた様々な知識技術の蓄積に加えていのちの諸相を学ぶことで深みのある医療人になれる。この授業では担当講師による死生学の体系だった学びに加えてゲスト講師を入れる事で多くの側面から死生学を捉えて行く事とする。</p>					
狙いと到達目標					
<p>人にとっての「生と死」の意味を死生学の観点からとらえるとともに、現代社会における「いのち」のあり方を多角的に考える。 自らの死生観をつくとともに、医療・福祉での仕事に携わるうえで役立つ知識とマインドを習得する。</p>					
授業において実務経験をどのように生かすか					
<p>牧師として、また児童養護施設の理事としてそれらの実務を通して培った人間観、人生観を授業に生かす。また死を前にした本人、家族などの悲嘆に関わりながら身に付けてきた死生感も若い学生たちに理解できるように授業に生かして行く。更に専門学校講師として長く教育に携わってきた経験も授業の組み立てなどの点で生かす。</p>					
授業計画・内容					
1	死生学とは	現代における生と死	渡辺俊彦		
2	危機理論	渡辺俊彦			
3	安楽死と尊厳死	告知について	渡辺俊彦		
4	スピリチュアルとその構造	渡辺俊彦			
5	死生観	渡辺俊彦			
6	医療人間学の視点から(1)	和田 眞	大学名誉教授 理学博士 死生学研究者		
7	医療人間学の視点から(2)	和田 眞	大学名誉教授 理学博士 死生学研究者		
8	ガン哲学外来メディカルカフェで プロの患者になりました	渡辺三修			
9	看護師が見つめる死と生(1)	白土智子	看護師		
10	看護師が見つめる死と生(2)	白土智子	看護師		
評価方法	課題提出、授業への参加度を総合的に判断する				
自由記述 (メッセージ)					

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	一般臨床医学Ⅱ		必修	3年後期	20コマ・40時間
担当教員	山・水野・成田・温井・佐々木	背景			
授業形態	講義、グループワーク	実務家教員	である		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	基礎となる解剖、生理学の理解と各種疾患学				
教科書等	随時資料配布				
<p>授業概要</p> <p>臨床に出るにあたって必要となる薬学、NST、画像診断に関して実践的な学びを深め、臨床教育に活かしていく。また、臨床現場にて活躍されている臨床家からの話を通してよりその具体性を高め、実践につなげる。</p>					
<p>狙いと到達目標</p> <p>各臨床科目の特徴を理解し、臨床場面にどのように活かしていくか説明出来る。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>臨床経験での症例や自身の体験および社会的関心の高い事象を織り込みながら、授業を展開していく。それにより、受講生が具体的にイメージしながら、主体的に授業に臨めるようにしていきたい。</p>					
<p>授業計画・内容</p>					
1	リハビリテーションにおける薬学①	水野			
2	リハビリテーションにおける薬学②	水野			
3	臨床医学の基礎と実践①	山			
4	臨床医学の基礎と実践②	山			
5	臨床医学の基礎と実践③	山			
6	臨床医学の基礎と実践④	山			
7	臨床医学の基礎と実践⑤	山			
8	臨床医学の基礎と実践⑥	山			
9	臨床医学の基礎と実践⑦	山			
10	臨床医学の基礎と実践⑧	山			
11	臨床医学の基礎と実践⑨	山			
12	臨床医学の基礎と実践⑩	山			
13	栄養リハビリテーション学①	成田			
14	栄養リハビリテーション学②	成田			
15	高次脳(画像診断)①	温井			
16	高次脳(画像診断)②	温井			
17	精神科における薬学①	佐々木			
18	精神科における薬学②	佐々木			
19	精神科における薬学③	佐々木			
20	精神科における薬学④	佐々木			
評価方法	授業ごとの課題提出、確認テストにより理解度を見ていき、総合的に評価する。				
<p>自由記述 (メッセージ)</p>					

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業療法管理学		必修	3年前期	15コマ・30時間
担当教員	温井恵	背景	作業療法士歴23年		
授業形態	講義	実務家教員	臨床10年以上		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	適宜資料配布				
<p><b>授業概要</b></p> <p>作業療法士として必要な医療機関での管理運営(カルテ記載/衛生管理/個人情報保護/実習形態)に関する基本知識の習得を図る。働き方が多様化する昨今において、様々な現場で活躍している作業療法士の話聞き、管理の実際についての理解を深める。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b></p> <p>組織における管理運営に関する基礎知識を習得する。 医療現場で働く作業療法士として自身や環境に対してのリスク管理を学び、実習やその後の臨床場面においても実践が出来る。</p>					
<p><b>授業において実務経験をどのように生かすか</b></p> <p>管理運営者によって職場のスタッフの勤労意欲は高まることも低くなることも経験している。この講義の受講者は卒後まずは被管理者の立場である。作業療法は実学であるため有用となる内容を提供したい。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	マネジメントとは・リスク管理 ★小テスト			温井	
2	多様な働き方			作業療法士	
3				稲毛礼子先生	
4	回復期リハビリテーション病院			ねりま健育会病院	
5	病院における管理運営			二瓶太志先生	
6	個人情報保護・カルテ記載(SOAP) ★小テスト			温井	
7	スタンダードプレコーション・感染症対策 ★小テスト			温井	
8	就労移行支援 施設管理・運営			フェルデンクライスジャーニー	
9				石田耕一先生	
10	事業経営管理			(株)ステディーリンク グループホームリックス 石黒武先生	
11	会社(起業)における管理運営				
12	司法領域における管理運営/作業療法			府中刑務所	
13				紙田緑先生・林稚憲先生	
14	理学療法士・作業療法士法・歴史 ★小テスト			温井	
15	実習指導(CCS/OSCE) ★小テスト			温井	
評価方法	振り返りシート(ルーブリックによる)/小テスト 合算にて60%以上にて合格				
自由記述 (メッセージ)	作業療法士は医療の国家資格であり、組織の中においては早期より管理運営に携わる可能性も高い職種である。幅広く仕事をしている講師陣より働き方、管理運営について学び、自身の将来についても一考する機会として欲しい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	職業関連活動援助学		必修	3年前期	10コマ・20時間
担当教員	温井恵・中村有志・佐藤俊之	背景	臨床10年		
授業形態	講義・演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし *必要書類は適宜配付 PC持参にて調べ学習を行います				
<p><b>授業概要</b></p> <p>少子高齢化となっている現代において、日本を支える人材の育成は最重要事項である。障害と向き合いながらも就労し役割を得る事、人として当たり前の幸福、やりがいを感じ、生活が豊かになるよう支援をしていくことは作業療法士の責務である。人間にとって「働くこと」とは何かをグループワークやディスカッションを通して考え、障害者を取り巻く現状、就労支援現場の実際について学び、支援を行うにあたって必要な知識を身に付ける。また自身も社会に出ていく立場であることを自覚し、臨床において就労、社会参加までを視野に入れて関わられるような視野を養う。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b></p> <p>人にとっての職業の意義を考え、障害を持つ人へもその保障をするべく、作業療法士としてどのような側面に援助したらよいかを考える。 職業リハビリテーションの実践現場の話聞き、作業療法士の役割を考え、実際的なアプローチ方法を学び、臨床で生かせるようにする。</p>					
<p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>身体・精神・発達領域での実務経験(急性期・回復期リハビリテーション病棟・リワーク・特別支援学校・教育機関巡回)を、講義内容と直接的に結びつけることで、学生の理論理解と実践の繋ぎのイメージ構築に生かす。また、臨床実践されている現場の先生から学ぶ機会を得て、理解を深めていく。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	「働くこと」とは・・・討論(Think pair share) 調べ学習				
2	国連・ILOと日本における障害者雇用・・・討論(Think pair share)調べ学習				
3	障害をもつ人にとっての「働き」障害者自立支援法・・・討論(Think pair share)				
4	障害をもつ人への支援制度・・・調べ学習				
5	作業療法士が理解すべき就労支援の知識・・・演習・実践①				
6	就労支援現場での実際① 精神科リワークでの取り組み				
7	佐藤俊之 先生				
8	就労支援現場での実際② 国立障害者リハビリテーションセンターでの取り組み				
9	中村有志 先生				
10	作業療法士が理解すべき就労支援の知識・・・演習・実践②				
評価方法	課題提出・確認テスト+定期試験(教科書、資料の持ち込みは不可)60%以上で合格 再試は全ての範囲を含めて実施				
自由記述 (メッセージ)	人間にとって学び、得たスキルを他者から必要とされ、それによる報酬を得る、ということは生活基盤を作る上での大変重要な営みです。働くことは人の人生において目標となり、手段となるもので、それは障害を持っている方も同様です。人にとって働くこと、役割があることがどのようなものかを考え、また日本における制度を理解し、作業療法治療に応用していかれる臨床家になれるよう、臨んで下さい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業療法研究法Ⅱ		必修	3年前期	8コマ 16時間
担当教員	佐々木康友	背景	作業療法士 15年以上		
授業形態	講義	実務家教員である			
受講ルール	特になし				
受講条件	特になし				
教科書等	山根(2017)精神障害と作業療法 新版				
<b>授業概要</b> 数例の事例をもとに改めて評価を行い、適切な支援を行うための「そのひとらしさ」を把握していく					
<b>狙いと到達目標</b> 作業療法における対象者を評価することとは何かを理解し、表現できる					
授業において実務経験をどのように生かすか これまでの実務経験から表面的な対象者の理解では、適切な支援には繋がらないことを痛感してきた。そこから「どうすれば良いのか」私自身の考えを伝えながら、対象者を理解するための方法・考え方について理解を深めて欲しい。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	作業療法における評価とは何か？				
2	事例研究① 統合失調症の事例から全体像をまとめる				
3	事例研究① 統合失調症の事例から考察・焦点化を行う				
4	事例研究① 統合失調症の事例からプログラム立案を行う				
5	事例研究② 認知症の事例からの情報収集				
6	事例研究② 認知症の事例からの全体像のまとめ				
7	事例研究② 認知症の事例から「その人らしさ」を理解する				
8	事例研究③ まとめと補足				
評価方法	試験				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床作業療法演習Ⅲ		必修	3年通年	15コマ・30時間
担当教員	竹本龍太 温井恵	背景	作業療法士歴10年以上		
授業形態	演習	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	なし				
<b>授業概要</b> 臨床実習、就職活動に向けて医療従事者としての倫理観と、社会人としての行動を学ぶ。また、臨床実習に向けて臨床推論の振り返りと記録方法を実践を交えて学習する。					
<b>狙いと到達目標</b> ・総合実習、就職活動における社会人としてのマナー・スキルを醸成する。 ・就職へのイメージを構築し、具体的な手順や動きを理解し行動出来る。 ・適宜必要な情報を収集し、報告・相談するうえでのコミュニケーションスキルの獲得をする。					
授業において実務経験をどのように生かすか 総合病院での臨床経験、職責者経験、復職支援施設での研修経験を活かし、実践的な指導を行う。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	医療従事者の倫理観/感染対策				
2	セルフメンタルコントロール/社会人としてのメールマナー				
3	OTのキャリア形成/就職活動の心構え				
4	デイリーノート(SOAP)・症例レジュメの記載方法				
5	インテーク面接(生活行為目標の聴取)				
6	実習における実技の実践演習				
7					
8	確認テスト/コミュニケーショントレーニング				
9					
10	キャリア教育				
11					
12					
13					
14	実習における知識確認				
15					
評価方法	就職関連20% 確認テスト30%、知識試験50% ※総合成績で60%に満たない場合は知識試験で再試				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	地域作業療法学Ⅱ		必修	3年前期	15コマ・30時間
担当教員	中村由美他	背景	作業療法士歴5年以上		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 地域作業療法学 第4版 医学書院				
<b>授業概要</b> 地域作業療法に関連する法制度の理解を深め、身体・精神・発達領域における実践事例を通して、地域での作業療法士の役割と今後の課題について学ぶ。					
<b>狙いと到達目標</b> 一般目標：地域作業療法を実施するために必要な諸制度との関わりや他職種連携を基盤に、生活モデル視点での評価・プログラム立案・実践過程を理解できる。 行動目標 ①地域作業療法の基盤となる制度や施策を理解し説明できる。 ②様々な事例を通して地域作業療法における作業療法士の活動内容と役割を説明できる。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 病院での外来リハ、老健での通所リハ、訪問リハの経験から、学生が地域生活者の生活モデルをイメージできるよう具体例を示す。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	地域作業療法				
2	介護保険・障害者総合支援法の理解				
3	地域作業療法の実践例(診療所)				
4	地域作業療法の実践例(地域包括支援センター)				
5	地域作業療法の実践例(精神科領域：退院支援)				
6					
7	地域作業療法の実践例(精神科領域：地域生活支援)				
8	地域作業療法の実践例(発達支援・教育)* 温井				
9					
10	地域作業療法の実践例(介護予防事業)				
11	総合演習：介護予防教室のプログラムを考えよう				
12					
13	総合演習(発表)				
14	精神障害者の地域生活支援の実践事例(復職支援・スポーツ)* 竹本				
15					
評価方法	筆記テスト70% 発表10% 振り返りシート*(10点×2回)				
自由記述 (メッセージ)	実践事例を通して学びを深めましょう。グループワーク、ディスカッションには積極的に参加しましょう。				

実務家教員

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床実習Ⅱ-1及びⅡ-2(総合実習Ⅰ/Ⅱ)		必修	3年前・後期	(360時間)×2期
担当教員	竹本龍太 他	背景	作業療法士歴10年以上		
授業形態	臨床実習	実務家教員 である			
受講ルール	実習着ルール				
受講条件	感染対策の遵守,個人情報の保護(SNS等での拡散禁止)				
教科書等	全教科				
<p><b>授業概要</b></p> <p>実習前学内では、予習として知識・技能の確認のため知識試験、Objective Structured Clinical Examination(以下OSCE)を行う。臨地実習では、基本的に見学・模倣・実施による診療参加型実習を行う。復習としてデイリーノートやレジユメの作成と、実習後学内セミナーにて作業療法実践の発表、実習後OSCEを行う。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b></p> <p>臨床実習指導者の指導・監督の基で、典型的な障害特性を呈する対象者に以下の対応を身に付ける。</p> <p>①総合実習を通じて作業療法士の役割と基本的態度、チームアプローチの実際を学ぶ。          ②作業療法士を目指す学生としての基本的態度を身につける。          ③対象者の改善課題整理と目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける。          ④プログラム実施を通じて治療・指導・援助ができる技能を身につける。          ⑤プログラムの効果を判定する能力を身につける</p> <p>授業において実務経験をどのように生かすか</p> <p>臨床における実習生指導の経験を生かし、実習施設側、養成校側、学生の視点にたつて指導・支援を行う。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
<b>【実習前学内】×2</b>					
	実習オリエンテーション・準備				
	知識試験				
	実習前技能OSCE				
<b>【臨床実習(8週間)】×2期</b>					
	施設概要/作業療法士の1日の動き方を把握する				
	当該施設の作業療法士の基本的態度、評価/治療場面の見学、模倣、実施				
	評価に関する情報収集				
	対象者の評価・治療目標設定				
	対象者の治療計画の立案				
	対象者の再評価				
	デイリーノート・MTDLプレジユメ作成				
<b>【実習後学内】×2</b>					
	セミナー発表				
評価方法	実習地評価(指導者評価・実習出席状況) 学内評価(知識試験、OSCE、セミナー)で総合判定				
自由記述 (メッセージ)	実習前・実習中は感染対策を特に注意して行ってください。OSCEの内容は、実習において必要な知識・技術となりますので練習から励み、しっかり準備をしたうえで実習に臨みましょう。				